

画 情 森 龍

2008年度

講 義 計 画

桃山学院大学

画

十

義

講

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	馬 場 巖

【講義概要・学習目標】

これから、法学部の学生としての法律の基礎知識を習得できることを目的にします。資料の収集の仕方、レポート・論文の書き方、判例の読み方、報告の仕方などを勉強します。これらが終わった後、研究発表を行ってもらいます。

【講義計画】

ガイダンス・自己紹介・資料の収集の仕方、レポート・論文の書き方、判例の読み方、報告の仕方などを行います。その後、個人ないしグループで、私のほうから指示した法律問題に関する研究発表をしてもらいます。

【成績評価の方法】

出席状況・演習における貢献度によります。

【教科書】

授業において指示します。

【参考文献】

授業において指示します。

【備考】

演習ですので、原則、出席が条件です。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	前 田 徹 生

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、研究情報収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献講読等を中心とし、さらに、夏休み等を利用して、裁判所の見学、情報公開法〔条例〕利用による実践的学習等の体験教育などを行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモチベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。

【講義計画】

- | | |
|---------------|-------------|
| 1) ゼミ・ガイダンス | 11) ノートのとり方 |
| 2) ディベート | 12) 報告／討論 |
| 3) ディベート | 13) 報告／討論 |
| 4) ディベート | 14) 報告／討論 |
| 5) ディベート | 15) 報告／討論 |
| 6) ディベート | 16) 報告／討論 |
| 7) 図書館ガイダンス① | 17) 報告／討論 |
| 8) 図書館ガイダンス② | 18) 報告／討論 |
| 9) 原稿の書き方 (1) | 19) 報告／討論 |
| 10) 原稿の書き方 | 20) 報告／討論 |

【成績評価の方法】

単位認定の最低条件：三分の二以上の出席。報告を行うこと、レポートの提出。

成績は、これらの成果を総合して判定する。

【教科書】

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ〔第5版〕』有斐閣

【参考文献】

その都度、提示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

大学では、高校までとは異なり、主体的な学習が要求されます。そこで基礎演習では、大学で主体的に学ぶために必要なスキルを身につけることを目標に設定しています（アカデミック・ガイダンス）。具体的には、わからない言葉や事項があれば「調べる」こと、調べた結果や考えた結果を「まとめる」こと、さらにそれらを「発表する」こと、そして、それに対する質問や反論に「答える」ことのできる能力の習得です。いうまでもありませんが、これらの能力は社会人としても要求される能力ですから、将来を見すえながら一歩ずつ着実にステップを踏んでいきましょう。

また、法学部のこれからの学習がスムーズにいくようさまざまな情報を、ゼミ生全員が共有する場にしていきたいと考えています。

【講義計画】

1. 図書館・情報センターを利用して情報収集の方法を学ぶ。
2. 情報を整理する方法を学ぶ。
3. レジュメの作成方法を学ぶ。
4. 口頭発表に慣れる。
5. 論文を読み、さらに論述作文に慣れる。
6. 討論（質疑応答）の作法を学ぶ。
7. 法律用語に慣れる、そして使ってみる。
8. その他（裁判傍聴や模擬法廷など）

【成績評価の方法】

出席、レポート、議論への参加状況を総合的に判断して評価する。

【教科書】

とくに用いないが、六法は必ず持参すること。

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	松 村 昌 廣

【講義概要・学習目標】

この演習は新入生に対して、今後、法学部の学生としてより専門的な学習に取り組む基礎となるように、法律や政治の根本的な概念を理解させることにある。

指定テキストは通常のテキストと異なり、憲法の条文解釈とはまったく一線を画している。テキストは憲法が掲げて立つ民主主義の正体を歴史的・学問的に説明するとともに、現在の日本がどうして閉塞状況に至ったかを分析している。

このような学習材料を用いることで、受講生は今後四年間、法学部生として学習していく上で強い動機付けを持つことができるだろう。

【講義計画】

テキストを少しづつ輪読し、教員と学生との質疑を中心としてゼミを進める。毎回、二人の学生を決めて、テキストの該当箇所について口頭発表を求める。

- 1) 日本国憲法は死んでいる
- 2) 誰のために憲法はあるか
- 3) すべては義解から始まった
- 4) 民主主義は神様が作った
- 5) 民主主義と資本主義は双子だった
- 6) はじめに契約ありき
- 7) 「民主主義のルール」とは何か
- 8) 「憲法の敵」は、ここにいる
- 9) 平和主義者が戦争を作る
- 10) ヒトラーとケインズが20世紀を変えた
- 11) 天皇教の原理 — 大日本帝国憲法を研究する
- 12) 角栄死して、憲法も死んだ
- 13) 憲法はよみがえるか

【成績評価の方法】

基本的概念の理解度を採る小テスト（10分間）を13回行う。一回5点、計65点。残り35点は出席率、発表、発言の頻度及び内容を総合的に判断して評価する。80点以上はA、70点から79点はB、60点から69点はC、59点以下はDとする。

【教科書】

小室直樹 痛快！ 憲法学 集英社インターナショナル

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	南 由 介

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミックガイダンスとして開講されます。大学での学問は、高校までとは違い、教えられる（耳から聞く）だけではなく、自ら積極的に学ぶ（自分で調べてくる）必要があり、いわば自己責任の世界です（怠けても誰も助けてくれません）。それ故、新入生は戸惑うことも多々あるかと思えます。

本演習では、大学での学問における戸惑いを解消し、4年間の学生生活を有意義に過ごすために、勉学に必要な基礎的能力を養うことを目的とするものです。そのため、本演習は、例えば、情報収集の仕方、自分で調べ、報告をする能力、ディベートによる表現能力の向上等、大学での学習において必要となる能力を身につけることを通じて、大学生活が円滑に進むよう、側面的に支援します。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：六法の読み方
- 第3回：文献検索・情報収集ガイダンス
- 第4回：文献検索・情報収集
- 第5回：ディベート準備（1）
- 第6回：ディベート準備（2）
- 第7回：ディベート
- 第8回：判例の読み方（1）
- 第9回：判例の読み方（2）
- 第10回：日本の裁判制度（1）
- 第11回：日本の裁判制度（2）
- 第12回：現代社会と法律（1）
- 第13回：現代社会と法律（2）
- 第14回：学問をすることの意義
- 第15回：春学期まとめ
- 第16回：報告準備
- 第17回：報告（1）
- 第18回：報告（2）
- 第19回：報告（3）
- 第20回：報告（4）
- 第21回：論述の書き方
- 第22回：報告（5）
- 第23回：報告（6）
- 第24回：報告（7）
- 第25回：報告（8）
- 第26回：判例を読む（1）
- 第27回：判例を読む（2）
- 第28回：判例を読む（3）
- 第29回：判例を読む（4）
- 第30回：秋学期まとめ

【成績評価の方法】

出席、レポート、演習における積極性等、総合的に評価します。担当者は、受講者が欠席しても、レポートを提出しなかったとしても、強く注意することはありません。しかし、その場合は必ず評価が下がる（単位を落とす）こととなりますので注意してください。

【教科書】

適時、指定します。

【参考文献】

適時、指定します。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4単位	村 山 高 康

【講義概要・学習目標】

法学部で学ぶ科目の大半は、いわゆる「社会科学」の学問分野に属するものである。なかでも「憲法」学は「社会科学」の中心をなすものであり、法律のみならず政治・経済・社会のあらゆる領域にわたって関係する基礎的な学問である。この基礎演習では、憲法（およびその他様々な法律）の法学的研究に進む前に学ばなければならない近現代の思想や歴史、経済・社会構造などを、（現日本国を含む近代憲法の諸条項を参照しながら）研究する。もちろん演習では、大学でのアカデミック・ガイダンスも随時行う予定である。

【講義計画】

1. 演習のためのガイダンス
2. 演習の運営について
3. なぜ憲法を学ぶか
4. 近代憲法はどのようにして生まれたか
5. 近代憲法・近代デモクラシー・近代資本主義の関係
6. 近代デモクラシーと近代社会の関係
7. アメリカ独立革命とフランス大革命
8. 20世紀の国際社会—戦争と平和—
9. 日本国憲法を考える

【成績評価の方法】

出席・演習での勉学態度・レポートなどの総合評価

【教科書】

担当教員がコピーしたものを用意する

【参考文献】

「基本六法」は必携

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4単位	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進める際の文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術（特に法律学学習のノウハウ）を体得してもらう予定である。学内の図書館の見学を授業の一環として実施するほか、事情が許せば学内外の諸施設の見学利用等も考えたい。なお、法律関係の各種資格試験の紹介や全般的な履修指導も行うつもりである。

【講義計画】

春学期は毎時間、教科書の輪読の他、別途配布資料を学生諸君に分担して紹介報告してもらう予定である。図書館等の見学に時間を割くこともある。作文・小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業を課すこともある。全般的な履修指導のほか、各種資格試験の案内も行う。

夏休み中および秋以降の課題として、各自が関心のある問題につき文献・資料を読んだ上でレポートを書いてもらうこととする（レポートのテーマは各自の選択に委ねるつもりだが、大枠は指定するかもしれない）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。

【成績評価の方法】

出席状況と受講態度、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【教科書】

弥永真生 法律学習マニュアル [第2版補訂版] 有斐閣

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】

1年生の「大学生生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

<学習目標>

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

*全回出席を原則とする

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 読んで理解し、要約を書く (1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く (2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く (3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く (1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く (2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く (3)
- 第8回 プレゼンテーションの作成
- 第9回 プレゼンテーションの練習 (1)
- 第10回 プレゼンテーションの練習 (2)
- 第11回 わかりやすく表現する (1)
- 第12回 わかりやすく表現する (2)
- 第13回 わかりやすく表現する (3)
- 第14回 「演習」への取り組み方と全体のまとめ

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

小テスト

レポートなどの提出とその内容

授業中の態度など

*無断欠席4回以上は単位認定対象外になります。

*TOEICの受験が成績評価に反映されることがあります。

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

【備考】

<留学生>対象

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	明 石 吉 三
03	秋学期		井 上 敏
04	秋学期		井 上 敏
05	秋学期		岸 本 裕 一
06	秋学期		信 夫 千佳子
07	秋学期		信 夫 千佳子
08	秋学期		武 田 久 義
09	秋学期		竹 中 暉 雄
10	秋学期		谷 武 幸
11	秋学期		中 村 恒 彦
12	秋学期		深 谷 清
13	秋学期		三 宅 亨
14	秋学期		長谷川 彰
15	秋学期		長谷川 彰
16	秋学期		長谷川 彰
17	秋学期		深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

1年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、「読む・聞く・書く・話す」の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、「読む・聞く・書く・話す」を勉強します。特に、「書く・話す」、すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

<学習目標>

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

*全回出席を原則とする

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 読んで理解し、要約を書く(1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く(2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く(3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く(1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く(2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く(3)
- 第8回 プレゼンテーションについて(ビデオ等)
- 第9回 わかりやすく表現する(1)
- 第10回 わかりやすく表現する(2)
- 第11回 わかりやすく表現する(3)
- 第12回 3年生からの「演習」への取り組み方
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

- レポートなどの提出とその内容、授業中の態度など
- *無断欠席4回以上は、単位認定対象外となります。
- *TOEICの受験が成績評価に反映されることがあります。

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

科 目 名			
キャリア教育科目ーキャリアデザインⅠ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	野 口 由輝子
02			
03			
04			

【講義概要・学習目標】

キャリアデザインⅠでは、社会人生活の前哨戦でもある大学生活を、受講生一人ひとりが充実したものにしていき、将来なりたい自分に近づくためのきっかけ作りを進めていきます。その方法として、ディスカッションやフィールドワーク等を通じて、学生生活を具体的に充実させるための手法を学び、主体的に考え抜き、現実的に行動していけることを目指します。同時に、キャリアデザインに必要な知識の習得とスキル開発を実施していきます。

【講義計画】

- ①大学生のためのキャリアデザインの理解
- ②社会で活躍するために必要な力
- ③様々な働くスタイルの研究
- ④働く社会人からの実践的な学び
- ⑤多面的な自分探しと自己理解
- ⑥キャリアデザインを楽しむためのコツ
- ⑦キャリアデザインのためのプレゼンテーション
- ⑧キャリアデザインとインターンシップ

【成績評価の方法】

出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。

【教科書】

MY CAREER NOTE I ベネッセコーポレーション
(ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください) 必要に応じてプリント配布

【参考文献】

講義中に適宜指示します。

【備考】

<08生>のみ対象

か
行

科 目 名			
キャリア教育科目－キャリアデザインⅠ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05 06	通期	4単位	中 山 一 郎

【講義概要・学習目標】

キャリアデザインⅠでは、社会人生活の前哨戦でもある大学生活を、受講生一人ひとりが充実したものにしていき、将来なりたい自分に近づくためのきっかけ作りを進めていきます。その方法として、ディスカッションやフィールドワーク等を通じて、学生生活を具体的に充実させるための手法を学び、主体的に考え抜き、現実的に行動していけることを目指します。同時に、キャリアデザインに必要な知識の習得とスキル開発を実施していきます。

【講義計画】

- ①大学生のためのキャリアデザインの理解
- ②社会で活躍するために必要な力
- ③様々な働くスタイルの研究
- ④働く社会人からの実践的な学び
- ⑤多面的な自分探しと自己理解
- ⑥キャリアデザインを楽しむためのコツ
- ⑦キャリアデザインのためのプレゼンテーション
- ⑧キャリアデザインとインターンシップ

【成績評価の方法】

出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。

【教科書】

MY CAREER NOTE I ベネッセコーポレーション
(ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください) 必要に応じてプリント配布

【参考文献】

講義中に適宜指示します。

【備考】

<08生>のみ対象

科 目 名			
キャリア教育科目－業界・職種研究入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	鈴 木 健

【講義概要・学習目標】

本講義は、業界（業種）・職種に関する生きた情報を提供し、学生諸君による業種・職種選択の手助けをすることを目的としている。講義は、各業界の現役の企業人によって行われるので、業界・職種に関する文字通りリアルな情報が提供されることになる。卒業後、ビジネス社会に進路を求めようと考えている学生諸君の積極的な受講を勧める。なお、本講義を受講する学生は、併せて「職業を考える」や「インターンシップ」といった科目を履修することが望ましい。

【講義計画】

- 第1週 本講義のガイダンス
 第2週 業種（業界）と職種について考える（概論）
 第3週 業界（業種）と職種①
 第4週 業界（業種）と職種②
 第5週 業界（業種）と職種③
 第6週 業界（業種）と職種④
 第7週 業界（業種）と職種⑤
 第8週 業界（業種）と職種⑥
 第9週 業界（業種）と職種⑦
 第10週 業界（業種）と職種⑧
 第11週 業界（業種）と職種⑨
 第12週 業界（業種）と職種⑩
 第13週 業界（業種）と職種⑪
 第14週 本講義の総括

【成績評価の方法】

講義の性格上、出席して講義を聴くことが大前提となるので、第一に、出席を重視する。第二に、講義全体の終了後にレポートの提出を義務付ける。以上の二点を勘案して評価を決定する。

【備考】

インテグレーション科目
<08生>のみ対象

科 目 名			
キャリア教育科目－生活設計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	松 下 直 子

【講義概要・学習目標】

- ・さまざまな環境変化の中、ビジネス社会においても、組織側から社員への「押し着せの能力開発」の時代から、「自己責任と自律のキャリア開発」を個々人が意識することが必要になっていきます。
- ・職業人となってから、私たちが自身の生活設計を具現化するために、必要な力、とはなんでしょうか。専門知識だけでは、ビジネス社会を渡っていけないものではありません。職業人となってからは、大学で学んだ知識に加え、生活や仕事に不可欠な各種スキルや知識、智恵を、各自で習得していかねばなりません。自らが意識的、意欲的にスキルを吸収し続ける努力が必要です。仕事を中心とした自身の人生を、自らが自立・自律して描くために、学生のうちから「育つ」意識と行動を持つことが非常に重要な重要になってきています。
- ・大手食品メーカーで新卒採用責任者を含む様々な職種を歴任した後、社会保険労務士として独立、人材育成コンサルタントとして企業・自治体で年間150本以上の講義・講演を提供している教員の豊富な経験を活かし、学生諸君が社会に巣立った後、「自分の人生を自分らしく、自分で選択して生きる」ために必要な様々な知識やスキル、考え方を、演習型式も取り入れながら楽しく分かりやすく学びます。
- ・ビジネス社会が抱える課題や、そこで働く職業人の喜怒哀楽を知り、学生から職業人になる心の準備を行ないます。
- ・ビジネス社会がどのように成り立っているのか、組織はどのようなにして限られた経営資源から付加価値を生み出しているのか、職業人に必要な職務遂行能力とは何か。だからこそ、どのような人材を求め、輩出しようとしているのか、を考察します。
- ・公私共に充実した豊かな人生を主体的に創るために必要な考え方や知識、智恵とは何か。大学卒業後の自身の人生を、より具体的に前向きに検討するきっかけを提供します。

【講義計画】

- 1 オリエンテーション／生活と仕事の関連・調和
- 2 自己認識と自己受容／私のタイプ、価値観を知る
- 3 職業人に必要なスキルを知る①／業務遂行能力、スキルとは何か
- 4 職業人に必要なスキルを知る②／対人力を向上させる
- 5 職業人に必要なスキルを知る③／思考力を向上させる
- 6 職業人に必要なスキルを知る④／組織力を向上させる
- 7 組織の人事ルールを知る／労働法と組織倫理
- 8 組織の人事システムを知る①／給与とその仕組み
- 9 組織の人事システムを知る②／評価制度と育成制度
- 10 行政の社会保障施策を知る①／労働保険（労災保険、雇用保険）
- 11 行政の社会保障施策を知る②／社会保険（年金、健康保険）と私的保険
- 12 行政の税制施策を知る／租税（所得税、住民税、法人税）と徴収の仕組み
- 13 生活設計と経済プラン／人生に必要な収入と支出
- 14 まとめ／事例研究：先進企業における職業人のキャリアデザイン、ライフプラン事例
- 15 修了レポート作成

【成績評価の方法】

- ・出席（受身ではなく、積極的な参加を大いに期待します）
- ・日々の受講態度
- ・修了レポート
などを総合的に判断して決定します。

【教科書】

- ・都度、配布します

【参考文献】

- ・折に触れ、紹介します

【備考】

<06～08生>のみ対象

科 目 名			
キャリア教育科目－働くことと法知識			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	平 井 信 夫

【講義概要・学習目標】

「雇用社会の25の疑問」（大内信哉 著）をテキストとして使用しながら、実社会での問題点が自覚できるように講義を進めていく中で、社会生活に必要な不可欠な法知識を身につけていただきたい。
そのような中で、法律の心髄に触れてもらえることを目標とする。

【講義計画】

上記25項目について、入門的な概略を説明した上で、問題点の把握に努める。上記テキストは入門者向けに作成されたものではないため、項目順に授業を進めるのではなく、初心者理解しやすい体系で授業を進行する。

【成績評価の方法】

社会生活に必要な最低限の法知識が身につけていることを基準として、法論理が理解できるようになれば最大の評価をする。

【教科書】

大内 信哉（おおうち しんや）雇用社会の25の疑問（労働法再入門）株式会社 弘文堂

【備考】

<06～08生>のみ対象

科 目 名			
教育学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

教育について考えるには、人間について考える必要がある。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのか。その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、その際においても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。教育の理念を実現するためには、それに相応しい教育課程が必要であり、教育課程は教育理念の違いに応じて異なってくる。「学習指導要領」の変遷の裏にも、教育理念の変化が存在している。質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回、参考書に対応したレジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。

【講義計画】

1. 教育の一般的定義と教育の困難性
2. 人間の教育必要性と教育可能性
3. 人間の想像性・創造性
4. 遺伝×環境×?
5. 生涯学習の可能性と必要性
6. 教育上の人間関係
7. 近代教育の原理「合自然」
8. ルソーによる「子どもの発見」
9. 「合自然」の流れと反「合自然」
10. 児童中心主義とデューイ教育学
11. 連続の教育と非連続の教育
12. 教育理念の実現方法としての教育課程
13. 教育課程の編成方法と「学習指導要領」
14. 「権力作用としての教育」
15. まとめ

【成績評価の方法】

論述試験による（講義の前半、後半からそれぞれ2問出題、それぞれから1問、計2問選択）
設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、参考文献の内容にほぼ対応したプリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後まで配布しませんので注意してください。
質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受け付けます。遠慮なくどうぞ。
1年～履修可

科 目 名			
教育学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

教育について考えるには、人間について考える必要がある。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのか。その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、その際においても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。教育の理念を実現するためには、それに相応しい教育課程が必要であり、教育課程は教育理念の違いに応じて異なってくる。「学習指導要領」の変遷の裏にも、教育理念の変化が存在している。質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回、参考書に対応したレジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。

【講義計画】

1. 教育の一般的定義と教育の困難性
2. 人間の教育必要性と教育可能性
3. 人間の想像性・創造性
4. 遺伝×環境×?
5. 生涯学習の可能性と必要性
6. 教育上の人間関係
7. 近代教育の原理「合自然」
8. ルソーによる「子どもの発見」
9. 「合自然」の流れと反「合自然」
10. 児童中心主義とデューイ教育学
11. 連続の教育と非連続の教育
12. 教育理念の実現方法としての教育課程
13. 教育課程の編成方法と「学習指導要領」
14. 「権力作用としての教育」
15. まとめ

【成績評価の方法】

論述試験による（講義の前半、後半からそれぞれ2問出題、それぞれから1問、計2問選択）
設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、参考文献の内容にほぼ対応したプリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後まで配布しませんので注意してください。
質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受け付けます。遠慮なくどうぞ。
1年～履修可

科 目 名			
教育課程論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	鋒 山 泰 弘
02	秋学期		

【講義概要・学習目標】

テーマ「日本の学校の教育課程の課題」

受講生は、日本の学校の教育課程が直面している諸課題について知ることと、自己の大学入学までの学習をふり返り、基礎的・発展的な学力形成のために教育課程はどのように編成されるべきかについて考えることができるようになることが到達目標となる。本講義では日本の小学校・中学校・高等学校における教育課程の制度と内容（学校で何を教えるかについての制度と内容）について学び、児童・青年の発達課題に応える教育課程改革のあり方について講義する。

【講義計画】

1. 授業びらき
2. 教育課程を編成するとは
3. 学習指導要領と教育課程編成
4. 学習指導要領と教科書の関係
5. 日本の入試制度の特徴と教育課程
6. 子ども・青年の発達段階と教育課程
7. 子ども・青年の学力の実態と教育課程
8. 「教育内容の基礎・基本」と教育課程
9. 「総合的な学習の時間」の位置づけと教育課程
10. 学校の「特色づくり」と教育課程
11. 国際理解教育の課題と教育課程
12. 情報教育の課題と教育課程
13. 環境教育の課題と教育課程
14. 職業・労働に関する教育の課題と教育課程
15. まとめ

【成績評価の方法】

小レポート2本 20%
学期末の定期テスト80%

【教科書】

使用しない。授業ではプリントを配布する。

【参考文献】

田中耕治他著『新しい時代の教育課程』有斐閣 2005年
文部省『中学校学習指導要領解説―総則編―』東京書籍 平成16年
文部省『高等学校学習指導要領解説―総則編―』東山書房 平成11年

【備考】

<08生>のみ対象

科 目 名			
教育実習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	3単位	冷 水 啓 子 島 田 勝 正 林 陸 雄 竹 中 暉 雄
02	春学期		
03	春学期		
04	春学期		

【講義概要・学習目標】

「教育実習I」は、教職課程で履修してきた学習内容を、現実の教育現場に立って体験する実習校での実地実習とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」で定められている3単位となる。この科目は、中学校教諭普通免許状、高等学校教諭普通免許状取得に共通する必修科目である。中学校教諭普通免許状取得のためには、別に「教育実習II」も登録しなければならない。

学内の事前実習では、模擬授業と相互批評を繰り返して、十分な準備を行う。実地実習では、実際の学校現場で、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験する。教育実習では教員としての社会的責任が求められる。このことが自覚できない場合、あるいは、教員に必要な要件が満たせない場合、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価を拒否されることもある。学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、真摯な態度で臨むことが必要である。学内の事後実習では、自分の実習経験を発表し合ったり、本学の卒業教員の講話を聞いたりするなかで、実地実習の総括反省を行う。

なお、この「教育実習I」では、病気または事故など正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められない。

【講義計画】

1. ガイダンス
2. 模擬授業
3. 模擬授業
4. 模擬授業
5. 模擬授業
6. 模擬授業
7. 模擬授業
8. 実地実習
9. 実地実習
10. 実習体験報告
11. 実習体験報告
13. 卒業生教員の講話
14. 総括・反省

【成績評価の方法】

教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして―教職課程履修ガイド〔2005年度改訂版〕―』
池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）
白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

【備考】

インテグレーション科目

か
行

科 目 名			
教育実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	島 田 勝 正

【講義概要・学習目標】

「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅰ」とともに、中学校教諭普通免許状取得のための必修科目である。「教育実習Ⅰ」と合わせて「教育職員免許法施行規則」で定められている5単位となる。

「教育実習Ⅱ」では、教職課程で学んできた内容のうち、とりわけ生徒指導や特別活動など、教科外での活動や指導について、現実の学校現場において実地に体験することを主たる目的としている。

「教育実習Ⅱ」の実施形態には、春学期の「教育実習Ⅰ」（学内実習を除いて2週間）と連続してさらに2単位相当時間（一般に+1週間）実施するものと、「教育実習Ⅰ」とは別に、本学の地域連携実習協力校において、年間を通して2単位相当時間を実施するものがある。どちらになるかは、実習校が内諾した期間（2週間あるいは3週間）によって決まるので（2週間の場合は後者となる）、3年次の実習依頼時に中学校（場合によっては高等学校）側とよく相談しておく必要がある。

いずれの形態をとる場合でも、中学校教諭普通免許状取得希望者は、4年次春学期に行なう履修登録では、必ず「教育実習Ⅱ」の登録をしておかねばならない。

実地実習においては、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験するが、それには当然のこととして教員としての社会的責任の自覚が要求される。その自覚のない場合には、実習を途中で打ち切られたり、評価を拒否されたりすることもある。校長をはじめ各教員の指導によく従い、真摯な態度で臨む必要がある。

なお、この「教育実習Ⅱ」では、病気または事故など正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められない。

【講義計画】

最初のガイダンス、終了時の総括・反省以外、すべて学校現場での実施実習

【成績評価の方法】

教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして—教職課程履修ガイド〔2005年度改訂版〕—』

池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）

白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

科 目 名			
教育社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	山 内 乾 史

【講義概要・学習目標】

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会的視点から据えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。

また、発展途上国の教育問題もアジア、特に中国とインドを中心にわたってお話します。

講義は多人数になることが予想されるので、ビデオによる資料提示が多くなることと思います。

細かい点については、詳しいシラバスを第1回授業時に配布して説明します。

【講義計画】

1. イントロダクション
2. 教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
3. 日本における学歴社会論（1）－（3）
4. アメリカ合衆国の教育史（1）－（3）
5. イギリスの教育史（1）－（3）
6. 日本における学力低下問題と改革（1）－（3）
7. アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（1）－（2）
8. イギリスにおける学力低下問題と改革（1）－（2）
9. 日本における大学改革と教育機会の変化（1）－（2）
10. アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（1）－（2）
11. イギリスにおける大学改革（1）－（2）
12. 発展途上諸国の教育（1）－（2）
13. よい教師とは？（1）－（3）
14. 教育社会学とは？（まとめ）

【成績評価の方法】

成績評価は試験（70%）と授業終了時に課すレポート（30%）によります。具体的な方法については講義の時に指示します。前期、後期ともに一回欠席毎に10点減点します。ただし、欠席回数が前期3回以内、後期も3回以内であることが単位認定の条件です。4回以上（各期）欠席の学生には受講資格を認めません。

【教科書】

原清治・山内乾史・杉本均編 増補版 教育の比較社会学 学文社 2008年1月20日刊行

【参考文献】

山内乾史編『進路職業選択の教育社会学』（東信堂、2008年）

山内乾史監訳、S. ルヒテンベルク編『移民・教育・社会変動』（明石書店、2008年）

【備考】

E・SW・B・L・LE・LI・J生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科 目 名			
教育心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

- ・テーマ：乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程、並びに各発達段階における発達障害や心理障害のある子どもに対する教育臨床的援助について
- ・授業の到達目標：この授業では、生涯発達の観点から、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達と障害及び学習の過程に関する理論を学び、教育現場での実践的指導力を身につけるための基礎作りをめざす。
- ・授業の概要：教育現場において、子どもたちへの適切な学習指導や生活指導を行うために必要とされる、教育心理学的な基礎理論について講義する。講義を通じて、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程に関する理論を学ぶとともに、発達障害や心理障害のある子どもたちへの教育臨床的援助（特別支援教育を含む）について理解を深める。講義中心の授業となるが、学外研修（地域連携教育活動Ⅰ・Ⅱ）などに積極的に参加し、授業で習得した知識を実践的に確かめてほしい。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

【講義計画】

- 第1回：授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回：発達の原理（1）—初期発達と発達の可塑性
- 第3回：発達の原理（2）—遺伝と環境
- 第4回：発達段階理論（1）—フロイトとエリクソンの人格発達理論
- 第5回：発達段階理論（2）—ピアジェの認知発達理論
- 第6回：乳幼児期における心身の発達と学習
- 第7回：発達障害とその教育臨床的援助（1）—知的障害、学習障害、広汎性発達障害などの特徴
- 第8回：発達障害とその教育臨床的援助（2）—ある知的障害児の発達記録（ビデオ・DVD視聴）
- 第9回：児童期・思春期における心身の発達と学習
- 第10回：児童期・思春期における心理障害とその教育臨床的援助
- 第11回：特別支援教育の特徴とその実際—軽度発達障害の子どもへの学習指導（ビデオ・DVD視聴）
- 第12回：青年期における心理発達と学習
- 第13回：青年期における心理障害と教育臨床的援助
- 第14回：まとめ
- 第15回：定期試験

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

テキストは使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を個人で購入するか本学図書館から借りるかで、予習・復習の際に活用すること。

【参考文献】

- 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）

科 目 名			
教育心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

- ・テーマ：乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程、並びに各発達段階における発達障害や心理障害のある子どもに対する教育臨床的援助について
- ・授業の到達目標：この授業では、生涯発達の観点から、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達と障害及び学習の過程に関する理論を学び、教育現場での実践的指導力を身につけるための基礎作りをめざす。
- ・授業の概要：教育現場において、子どもたちへの適切な学習指導や生活指導を行うために必要とされる、教育心理学的な基礎理論について講義する。講義を通じて、乳幼児期、児童期・思春期、青年期における子どもの心身の発達及び学習の過程に関する理論を学ぶとともに、発達障害や心理障害のある子どもたちへの教育臨床的援助（特別支援教育を含む）について理解を深める。講義中心の授業となるが、学外研修（地域連携教育活動Ⅰ・Ⅱ）などに積極的に参加し、授業で習得した知識を実践的に確かめてほしい。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

【講義計画】

- 第1回：授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
- 第2回：発達の原理（1）—初期発達と発達の可塑性
- 第3回：発達の原理（2）—遺伝と環境
- 第4回：発達段階理論（1）—フロイトとエリクソンの人格発達理論
- 第5回：発達段階理論（2）—ピアジェの認知発達理論
- 第6回：乳幼児期における心身の発達と学習
- 第7回：発達障害とその教育臨床的援助（1）—知的障害、学習障害、広汎性発達障害などの特徴
- 第8回：発達障害とその教育臨床的援助（2）—ある知的障害児の発達記録（ビデオ・DVD視聴）
- 第9回：児童期・思春期における心身の発達と学習
- 第10回：児童期・思春期における心理障害とその教育臨床的援助
- 第11回：特別支援教育の特徴とその実際—軽度発達障害の子どもへの学習指導（ビデオ・DVD視聴）
- 第12回：青年期における心理発達と学習
- 第13回：青年期における心理障害と教育臨床的援助
- 第14回：まとめ
- 第15回：定期試験

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

テキストは使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を個人で購入するか本学図書館から借りるかで、予習・復習の際に活用すること。

【参考文献】

- 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）

科 目 名			
教育相談			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	和 知 富士子

【講義概要・学習目標】

授業の到達目標及びテーマ

現代社会の諸矛盾は、間接・直接に子どもたちを強いストレス下に置いており、その結果として、いじめや不登校などの問題行動や神経症・心身症が小学生の段階から現出している。

また、近年増加している児童虐待、災害、犯罪被害に関連しても心のケアが注目されている。

子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえなおし、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談として位置付けたい。

本講義では、心の健康であるメンタルヘルスの基礎理論をはじめとして、思春期に見られる問題行動などについて、社会現象や個別の事例を交えて説明する。また、子どもへの援助における基本姿勢とされるカウンセリングの基礎理論を、体験的学習を通じて学ぶ。

【講義計画】

授業計画

1. 導入
生徒指導と教育相談
2. 生徒指導の位置づけ
大阪府下S市教育委員会の実践
3. 教育相談の実際（問題別）
 - (1) 不登校
 - (2) いじめ
 - (3) 児童虐待
 - (4) 非行
4. 障害児（軽度発達障害等）
5. 精神・行動の障害
6. 心理療法の基礎
7. カウンセリングの実際 1
8. カウンセリングの実際 2
9. カウンセリングの実際 3
10. 外部の相談機関、医療機関
11. アセスメント方法
12. まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし欠席、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象にしない。

【教科書】

授業の進行にしたがってそのつどプリントを渡す。

【参考文献】

高野清純 監修 佐々木雄二 編
「図で読む心理学 生徒指導・教育相談」福村出版

科 目 名			
教育相談			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	和 知 富士子

【講義概要・学習目標】

授業の到達目標及びテーマ

現代社会の諸矛盾は、間接・直接に子どもたちを強いストレス下に置いており、その結果として、いじめや不登校などの問題行動や神経症・心身症が小学生の段階から現出している。

また、近年増加している児童虐待、災害、犯罪被害に関連しても心のケアが注目されている。

子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえなおし、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談として位置付けたい。

本講義では、心の健康であるメンタルヘルスの基礎理論をはじめとして、思春期に見られる問題行動などについて、社会現象や個別の事例を交えて説明する。また、子どもへの援助における基本姿勢とされるカウンセリングの基礎理論を、体験的学習を通じて学ぶ。

【講義計画】

1. 導入
生徒指導と教育相談
2. 生徒指導の位置づけ
大阪府下S市教育委員会の実践
3. 教育相談の実際（問題別）
 - (1) 不登校
 - (2) いじめ
 - (3) 児童虐待
 - (4) 非行
4. 障害児（軽度発達障害等）
5. 精神・行動の障害
6. 心理療法の基礎
7. カウンセリングの実際 1
8. カウンセリングの実際 2
9. カウンセリングの実際 3
10. 外部の相談機関、医療機関
11. アセスメント方法
12. まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし欠席、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象にしない。

【教科書】

授業の進行にしたがってそのつどプリントを渡す。

【参考文献】

高野清純 監修 佐々木雄二 編
「図で読む心理学 生徒指導・教育相談」福村出版

科 目 名			
教育法規			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠となってきた。法令というのは体系的なものである、その学習も体系的・逐条的にすべきであるが、この講義では単調さを避けるために、主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回レジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。

【講義計画】

1. 教育法規の種類および憲法の教育条項
2. 教育基本法・1 (制定の意義・前文～4条)
3. 教育基本法・2 (第5条～第18条)
4. 義務教育をめぐる諸問題・1 (不登校・家庭就学)
5. 義務教育をめぐる諸問題・2 (再生策・進級卒業)
6. 学校の教育課程と学習指導要領
7. 指導要録の作成目的
8. 教育法規と教師・1 (免許制度・採用・研修)
9. 教育法規と教師・2 (経済的待遇・諸義務・懲戒)
10. 教育法規と教師・3 (部活動指導・体罰禁止)
11. 教科書と教育法規
12. 学校保健・給食と教育法規
13. 情報公開・国際化と教育
14. 勅令主義・法律主義をめぐる問題
15. まとめ

【成績評価の方法】

試験による (基本的知識を問う穴埋め問題・40点、6問中3問選択の論述問題・60点)

論述問題は、設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』(改訂版) ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、プリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後にしか配布しません。講義内容は、上記の参考文献に含まれる事項も多いです。質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受け付けます。積極的にお願いいたします。

科 目 名			
教育法規			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠となってきた。法令というのは体系的なものである、その学習も体系的・逐条的にすべきであるが、この講義では単調さを避けるために、主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。質問や意見は、E-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、オフィス・アワーなどで受け付ける。なお毎回レジュメを配布するので、聴講しながらそれを補完すること。

【講義計画】

1. 教育法規の種類および憲法の教育条項
2. 教育基本法・1 (制定の意義・前文～4条)
3. 教育基本法・2 (第5条～第18条)
4. 義務教育をめぐる諸問題・1 (不登校・家庭就学)
5. 義務教育をめぐる諸問題・2 (再生策・進級卒業)
6. 学校の教育課程と学習指導要領
7. 指導要録の作成目的
8. 教育法規と教師・1 (免許制度・採用・研修)
9. 教育法規と教師・2 (経済的待遇・諸義務・懲戒)
10. 教育法規と教師・3 (部活動指導・体罰禁止)
11. 教科書と教育法規
12. 学校保健・給食と教育法規
13. 情報公開・国際化と教育
14. 勅令主義・法律主義をめぐる問題
15. まとめ

【成績評価の方法】

試験による (基本的知識を問う穴埋め問題・40点、6問中3問選択の論述問題・60点)

論述問題は、設問に対応した内容になっているかどうか、論理的に説明できているかどうかという観点から評価する。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』(改訂版) ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、プリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後にしか配布しません。講義内容は、上記の参考文献に含まれる事項も多いです。質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受け付けます。積極的にお願いいたします。

科 目 名			
教育方法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

・テーマ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざした「教育の方法及び技術」について

・授業の到達目標：この授業では、従来の反復練習に基づく学習とともに、知的好奇心や探求心に導かれながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とはなにかを考える。そのうえで、子どもが「わかる授業」の実施や「確かな学力」の育成に効果が期待できる、さまざまな教育メディアを活用した「教育の方法及び技術」に関する理論とその実際を学ぶ。さらに、コンピュータ実習を通じ、情報活用能力と情報機器活用スキルの習得をめざす。

・授業の概要：はじめに、教室の内外で行われる教授・学習活動及び教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲をかき立てる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習活動を支援するコンピュータの教育利用を取り上げ、その方法や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に理解する。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

【講義計画】

第1回：授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）

第2回：学習とは何か—教室の内外での学び

第3回：学習の基礎理論（1）—条件づけと行動療法

第4回：学習の基礎理論（2）—認知理論と観察学習

第5回：学習と認知—推理と問題解決

第6回：学習への動機づけと学習意欲—知的好奇心と内発的動機づけ

第7回：授業における教授・学習過程

第8回：個人差と学習指導

第9回：教育測定と学習評価

第10回：さまざまな心理テストの利用

第11回：情報メディアの活用—コンピュータの教育利用に関する理論と技法

第12回：コンピュータ実習（1）—インターネットの教育利用に際する諸問題

第13回：コンピュータ実習（2）—教室でのコンピュータの活用方法

第14回：まとめ—「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざして

第15回：定期試験

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて資料提供を行う。

【参考文献】

市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』（小学館）

桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2008年度版）

大村彰道（編）『教育心理学 I—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）

科 目 名			
教育方法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

・テーマ：「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざした「教育の方法及び技術」について

・授業の到達目標：この授業では、従来の反復練習に基づく学習とともに、知的好奇心や探求心に導かれながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とはなにかを考える。そのうえで、子どもが「わかる授業」の実施や「確かな学力」の育成に効果が期待できる、さまざまな教育メディアを活用した「教育の方法及び技術」に関する理論とその実際を学ぶ。さらに、コンピュータ実習を通じ、情報活用能力と情報機器活用スキルの習得をめざす。

・授業の概要：はじめに、教室の内外で行われる教授・学習活動及び教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲をかき立てる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習活動を支援するコンピュータの教育利用を取り上げ、その方法や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に理解する。授業に関連する補足資料は、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて提供する。

【講義計画】

第1回：授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）

第2回：学習とは何か—教室の内外での学び

第3回：学習の基礎理論（1）—条件づけと行動療法

第4回：学習の基礎理論（2）—認知理論と観察学習

第5回：学習と認知—推理と問題解決

第6回：学習への動機づけと学習意欲—知的好奇心と内発的動機づけ

第7回：授業における教授・学習過程

第8回：個人差と学習指導

第9回：教育測定と学習評価

第10回：さまざまな心理テストの利用

第11回：情報メディアの活用—コンピュータの教育利用に関する理論と技法

第12回：コンピュータ実習（1）—インターネットの教育利用に際する諸問題

第13回：コンピュータ実習（2）—教室でのコンピュータの活用方法

第14回：まとめ—「わかる授業」と「確かな学力」の育成をめざして

第15回：定期試験

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、ビデオ（DVD）、印刷物などを通じて資料提供を行う。

【参考文献】

市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』（小学館）

桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2008年度版）

大村彰道（編）『教育心理学 I—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）

科 目 名			
教職演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	島 田 勝 正
02	秋学期		島 田 勝 正
03	秋学期		林 陸 雄
04	秋学期		竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

本授業の到達目標は、世界市民を目指す本学の学生、とりわけ、教職を目指し、時代を担う児童・生徒の育成に携わろうとする者に対して、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている国際化時代を背景に起因するグローバルな課題について広い視野から認識させ、国際社会と関わり合っていく感性と行動力を育成するとともに、それらの内容を適切に指導しうる能力を養うことである。

この演習の大テーマは、「人類に共通する地球的課題および我が国社会全体に関わる課題とは何か」ということであるが、個別テーマとしては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、①「異文化理解」（国際理解、国内異文化理解、民族対立、地域紛争と難民など）②「環境問題」（ゴミ、電磁波、化学物質、人口と食料など）③「人権・福祉」（男女共同参画、少子化、高齢化、障害者理解と共生、家庭のあり方など）④「情報化社会」（携帯電話、インターネット、個人情報保護など）等がある。

受講生はいずれかの個別課題を選択したうえでグループに分かれ、各グループ内で検討した内容をミニ研究発表として発表し、それらの知見に基づき授業案を作成し、最後に研究授業を行なう。

【講義計画】

1. ガイダンス（個別テーマの決定とグループ分け）
2. 個別テーマ関連ビデオの視聴と討議
3. 各グループのテーマに関するミニ研究発表のための資料収集および討議（1）
4. 各グループのテーマに関するミニ研究発表のための資料収集および討議（2）
5. 「異文化理解」に関するミニ研究発表
6. 「環境問題」に関するミニ研究発表
7. 「人権・福祉」に関するミニ研究発表
8. 「情報化社会」に関するミニ研究発表
9. 各グループのテーマに関する授業案および教材の作成（1）
10. 各グループのテーマに関する授業案および教材の作成（2）
11. 「異文化理解」に関する授業研究
12. 「環境問題」に関する授業研究
13. 「人権・福祉」に関する授業研究
14. 「情報化社会」に関する授業研究
15. 総括レポートの作成

【成績評価の方法】

出席状況、発表・討議への参加度、授業案、研究授業、最終レポートなどによって総合的に評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

その都度、紹介する。

科 目 名			
教職概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

教員養成及びその免許制度を踏まえ、中教審答申及び教員免許法に即して、教職課程の意義と教員の役割と責務について取り上げる。特に教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化に焦点をあてる。昨今の様々な教育問題を取り上げつつ、子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとするために必要な基礎・基本を修得する。内容に合わせて、視聴覚教材の使用、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。

【講義計画】

- 第1回：教育の現状と課題
- 第2回：期待される教員の役割
- 第3回：教育をめぐる人々
- 第4回：教員の職務
- 第5回：教員の責務
- 第6回：教員の権利と報酬
- 第7回：教員の専門性維持と研修
- 第8回：教育実習
- 第9回：総合的学習の時間
- 第10回：特別支援教育
- 第11回：他種の職業と教職との類似性と独自性（受講生による課題レポート発表）
- 第12回：学校教育支援における保護者と地域の役割
- 第13回：どのような教師像を目指すのか
- 第14回：教員になるための計画作成
- 第15回：まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
ただし、2/3以上の出席を満たさない場合は、評価の対象としない。

【教科書】

田井康雄『教育職の研究』学術図書出版

【参考文献】

平成18年7月11日「中央教育審議会答申」

【備考】

1年～履修可

科 目 名			
教職概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

教員養成及びその免許制度を踏まえ、中教審答申及び教員免許法に即して、教職課程の意義と教員の役割と責務について取り上げる。特に教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化に焦点をあてる。昨今の様々な教育問題を取り上げつつ、子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとするために必要な基礎・基本を修得する。内容に合わせて、視聴覚教材の使用、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。

【講義計画】

- 第1回：教育の現状と課題
- 第2回：期待される教員の役割
- 第3回：教育をめぐる人々
- 第4回：教員の職務
- 第5回：教員の責務
- 第6回：教員の権利と報酬
- 第7回：教員の専門性維持と研修
- 第8回：教育実習
- 第9回：総合的学習の時間
- 第10回：特別支援教育
- 第11回：他種の職業と教職との類似性と独自性（受講生による課題レポート発表）
- 第12回：学校教育支援における保護者と地域の役割
- 第13回：どのような教師像を目指すのか
- 第14回：教員になるための計画作成
- 第15回：まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
ただし、2/3以上の出席を満たさない場合は、評価の対象としない。

【教科書】

田井康雄『教育職の研究』学術図書出版

【参考文献】

平成18年7月11日「中央教育審議会答申」

【備考】

1年～履修可

科 目 名			
行政法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続きに関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。それゆえ、行政法の数は多く、現行法規の80%を占める。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範囲にわたる行政法を総体的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は、「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要を解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には、取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。又、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法＝国家賠償についても検討したい。とともに、事後的に救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらおう。

【講義計画】

- 1 取消訴訟の1つの判決
- 2 取消訴訟の概略
- 3 不服申立て制度について
- 4 法律による行政の原理（1）
- 5 法律による行政の原理（2）
- 6 国家賠償制度の概略（1）
- 7 国家賠償制度の概略（2）
- 8 損失補償制度・形式的当事者訴訟
- 9 行政組織と行政立法（1）
- 10 行政組織と行政立法（2）
- 11 行政法の適用過程
- 12 行政行為の概念（1）
- 13 行政行為の概念（2）
- 14 中間テスト
- 15 行政行為の種別（1）
- 16 行政行為の種別（2）
- 17 行政行為の瑕疵（1）
- 18 行政行為の瑕疵（2）
- 19 職権取消と撤回
- 20 損失補償制度について
- 21 行政手続法について
- 22 行政計画
- 23 行政調査
- 24 行政強制（1）
- 25 行政強制（2）
- 26 行政強制（3）
- 27 行政指導（1）
- 28 行政指導（2）

【成績評価の方法】

基本的には、成績評価はテストで行う。期末テストと同等の評価対象である中間テストを初学期の中間時に行う。但し、毎回提出してもらおうチェックペーパー等も評価に加味する。

【教科書】

小高剛・寺田友子・由貴門眞治・牛島仁 行政法総論 ぎょうせいポケット六法 有斐閣

【参考文献】

『行政判例百選 I・II（第5版）』2006年・有斐閣
 塩野宏『行政法 I（第4版）』2005年・有斐閣
 原田尚彦『行政法要論（第6版）』2005年・学陽書房

科 目 名			
行政法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

多様な内容をもつ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。その理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校と言われる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得というだけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。さらに、そこで勤務する職員の法的地位について理解を深めるために、「地方公務員法」を「国家公務員法」と対比して講義する。

「地方自治法」及び「公務員法」を講義する過程で、「行政法Ⅰ」で不十分にしか講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について一層理解を深める。地方自治法又は公務員法をめぐって生じる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。また、「行政法Ⅰ」で不十分にしか講義できなかった客観訴訟の1つである機関訴訟・住民訴訟の判例を素材に地方公務員の地位についても理解を深めたい。春学期の「行政法Ⅰ」を履修して受講することが望ましい。

【講義計画】

地方自治法

- 1 地方自治の本誌とは、
- 2 地方公共団体の種類と区域（1）
- 3 地方公共団体の種類と区域（2）
- 4 地方公共団体の住民（1）
- 5 地方公共団体の住民（2）
- 6 住民監査請求・住民訴訟
- 7 普通地方公共団体の事務
- 8 普通地方公共団体の立法権（1）
- 9 普通地方公共団体の立法権（2）
- 10 普通地方公共団体の議会（1）
- 11 普通地方公共団体の議会（2）
- 12 普通地方公共団体の議会（3）
- 13 普通地方公共団体の執行機関（1）
- 14 普通地方公共団体の執行機関（2）
- 15 中間テスト
- 16 長と議会との関係
- 17 地方公共団体の財務（1）
- 18 地方公共団体の財務（2）
- 19 国と地方公共団体との関係（1）
- 20 国と地方公共団体との関係（2）

地方公務員法

- 21 公務員の意義
- 22 公務員の種類
- 23 労働基本権の制約（1）
- 24 政治的行為の禁止
- 25 地方公務員法の特例（警察官・消防職員・教員・地方公営企業職員）
- 26 人事行政機関（任命権者と人事委員会・公平委員会）
- 27 公務員の任用
- 28 住民訴訟にみる地方公務員の地位

【成績評価の方法】

基本的には、成績評価はテストで行う。期末テストと同等の評価対象である中間テストを秋学期中間時期に行う。毎回提出してもらうチェックペーパー等も評価に加味する

【教科書】

ポケット六法21年版 有斐閣

別冊ジュリスト『地方自治判例百選（第3版）』有斐閣

【参考文献】

適宜授業中指示する。

科 目 名			
共通教養特別講義－日本語を考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

昨今「日本語ブーム」とまで言われるほど、日本語関連の書籍や番組が盛況だ。その理由はさまざまであろうが、空気のように常に「そこにある」と思ってきた日本語についてしっかりと考えてみることは必要なことである。この授業ではテーマを決めて日本語を考察し、新たな発見につなげたい。親しすぎる存在である日本語が材料なので、参加学生にも意見を求めていく予定である。

【講義計画】

授業は以下のようなテーマに沿って考えていく。（順不同）内容理解を促進するために、配布資料や映像資料なども積極的に利用するつもりである。

- 1) 世界の言語の中の位置づけ
- 2) 日本語の表記について－漢字と仮名（2回）
- 3) 敬語はむずかしい？
- 4) 外来語の氾濫について
- 5) 外国人もすなる日本語（2回）
- 6) 「標準語」と「方言」－大阪「弁」って？（2回）
- 7) 男と女の日本語
- 8) 多言語社会日本
- 9) 日本人は外国語が下手？

【成績評価の方法】

出席を重視する（30%）が、さらに重要なのは毎回の授業の終わりにコメントペーパーを渡し、授業の内容のまとめと質問やコメントを書いてもらうが、その内容によって成績を判断する（40%）。そして期末には試験を行う（30%）。

科 目 名			
共通教養特別講義—英語・日本の安全保障			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 村 昌 廣

【講義概要・学習目標】

本講義は「英語で」勉強するコースであり、「英語を」勉強するコースではありません。想定する受講生は欧州からの交換留学生、帰国子女、英語圏で本格的な大学（community collegeを除く）講義を受けたことがある学生です。毎回、論文や本の章など、50ページ程度の読書を要求し、セミナー形式での討論を全て英語でおこないます。したがって、英語力が不足する学生に対する配慮は全くありません。

This lecture is designed primarily for foreign exchange students, and English is used as the only instructional language. Yet, those who have a good command of English are welcomed. Every week, students are required to read some fifty pages, such as a working paper or a book chapter, and actively participate in class discussion.

【講義計画】

This seminar-style course will examine Japan's national security, with a major emphasis on the continuity and discontinuity of alliance relationships of the United States and Japan during and after the Cold War. The assigned readings and lectures will cover the geo-strategic environment of East Asia, the dynamic changes of the triangular relations between the United States, Japan, and China, and the durability of the U.S.-Japan alliance. By taking this course, students are expected to learn basic historical and policy perspectives as related to Japan's national security.

Students are required to read the 420 page long textbook and the selected papers from the Japan Project of the National Security Archive located at George Washington University [http://www.gwu.edu/~nsarchiv/japan] Additionally, op-ed essays are assigned.

【成績評価の方法】

Students are required to write an essay (4000 words) on a specific topic to be given. For the final grade, the essay accounts for 70%, while class participation for 30%.

【教科書】

Kenneth B. Pyle Japan Rising: The Resurgence of Japanese Power and Purpose Public Affairs
各自入手のこと。

【参考文献】

1) Gallicchio, "Japan in America security policy"
2) Schaller, "The Nixon Shock and US-Japan strategic relations 1969 - 74" 3) Soeya, "US-Japan-China relations and the opening to China" 4) Green and Murata, "The 1978 Guidelines for the US-Japan Defense Cooperation"
5) Smith, "Do domestic politics matter?: the case of US military bases in Japan" 6) Chinworth, "Defense-Economic Linkages in US-Japan relations" 7) Murayama, "Studies on US-Japan military technology relations" 8) Oberdorfer and Izumi, "The United States and Japan and the Korean Peninsula: coordinating policies and objectives"

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
共通教養特別講義—協同社会			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

人間が社会的動物であることは、誰でも知っている。しかし、人間がどのような社会関係を結び、どのように助け合ってきたのかについては、あまり知られていない。人々の関係は、歴史的に大きく変化してきた。これを簡潔に述べるならば、古代社会は強い血縁関係のもとで、人々の結びつきは強かった。しかし、時代を経るに従って、人々間の絆は徐々に弱くなってきたとすることができらるだろう。そして現在、一つの大きな転換期にあると思われる。この講義では、人間が歴史的にどのような社会を形成し、どのように助け合ってきたのかについて学んでいく。

【講義計画】

主に次のような内容で講義を行う。(順不同)

1. 競争と協同（自然界における協同）
- 2～5. 共同体の歴史（1）～（4）
6. 共同体の解体
- 7～9. 人類史上の転換期（1）～（3）
- 10～11. 新たな共同体の形成（1）～（2）
- 12～13. 助け合う社会（1）～（2）
14. まとめ

【成績評価の方法】

期末テストとレポート等による。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
共通自由特別講義－IT活用の実際			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

IT (Information Technology) とは、コンピュータと通信の技術のことです。よく分からない人は、パソコンとインターネットに象徴されるものだと思っても良いでしょう。(詳細はオリエンテーション時に扱います。)

ITは急速に発展し、私たちの社会に深く根付いてきました。本講義では、各業種でITを活用している皆さんにおいていただき、最先端の活用状況をお話させていただきます。

また、就職活動を4回生になってから準備したのでは間に合わない一因として、実社会の現状を正しく認識する必要があることを踏まえ、余裕があればどのような人材が実社会に必要なのか、大学でどのような勉強をすることを社会が望むのかについてもお話いただけるようお願いしています。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とします。

【講義計画】

- 1 回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。
 - 2 回目以降に関しては講義計画執筆時(2007年12月)現在交渉中である。
 - 最終回にまとめを行う。
- 参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示す(順不同)。

- < 題目 >
- ・ IT時代の個人的情報処理
 - ・ IT活用の実際：クリエイターの立場から
 - ・ コンピュータのホスティングサービス
 - ・ 全社的セキュリティ対策
 - ・ 企業経営とIT
 - ・ 製鉄業とIT
 - ・ メディアにおけるコミュニケーション技術

他
< 企業 >
新日鐵、IBM、松下、ダイキン、ダイエー、東洋アルミニウム、ファーストサーバー、武田薬品工業、テレビ大阪、NTTドコモモバイル社会研究所
他

受講希望者は第一回目のオリエンテーションに出席のこと。
尚、講義計画執筆時未定のことについては、担当者のwebサイト (<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/>) で随時公開する。

【成績評価の方法】

毎回の提出物と最終レポートに基づき総合的に評価する。
最終レポートの内容は毎回の内容を65点、全体のまとめを35点で配分する。

詳細は1回目のオリエンテーション時に説明する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義－フィールドワーク方法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

本講義は、「入門」に引き続く「方法」として位置づけられている。したがって受講の際には、「入門」を受講していることが条件となる。また、実際に現場に出て、フィールドワークを実践することが求められる。

本講義のキーコンセプトは、「入門」と同じく、「地域」・「ボランティア」・「社会調査」に置かれている。経済学部や経営学部の科目と関連して置かれている「インターンシップ」や「キャリアデザイン」、または「職業を考える」などの、多分に実利を目的とした内容とは、その科目の意図をまったく異にした、別個の内容であることを、あらかじめ強調しておく。受講に際しては、くれぐれも誤解なきようにしてほしい。

具体的な講義内容は、複数の外部講師によって、地域社会の様々な現場で実践的な活動を行なっているNPOやNGO団体等の紹介がなされる。

教室内での座学に終始する「入門」と違って、この「方法」においては、外部講師による体験談やノウハウの紹介に導かれて、学生には、その現場へ実際に出向くことが求められる。さらには、その現場体験を持ち帰って、教場でのプレゼンテーションが求められる。したがって、人間が集団として営む「社会」に、多大の興味関心があり、その「社会」を自ら支えていくため、意欲的に取り組む気概を持った学生の受講を強く求める。

最後に、繰り返して言う。本講義の目的は、あくまでも地域社会でフィールドワークを積極的に行なおうとする、意欲的な学生の養成にある。したがって、この目的にそぐわない、やる気のない学生は、本講義の受講を差し控えてほしい。

【講義計画】

本講義は、学外の複数の地域活動やボランティア活動に従事している人々をゲスト講師に招いて、インテグレーション形式で行われる。各時間ごとのゲスト講師と、その講義内容に関しては、講義の最初に配布するシラバスによって明示する。

【成績評価の方法】

グループによるフィールドワークのプレゼンテーションの充実度、および最後の時間に教場で行なう記述式の試験によって評価する。なおその際に評価の低いものに対しては、毎回採る予定の出席回数を考慮する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

特に定めない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義—上方エンタメの発展史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	岸 本 裕 一

【講義概要・学習目標】

この講義は、「上方エンタメ栄枯盛衰——上方エンタメの現在・過去・未来——」というような性格をもったものである。故河合隼雄先生（京都大学名誉教授・元文化庁長官）は関西元気文化圏構想を提唱、「関西から文化力」のロゴの下で、関西の地域力の回復・増進を文化の面から成就させようとする戦略はしたたかそのものであった。その一環として、本講義の主宰者岸本裕一は、2005年「上方の文化・芸術と大阪ブランド」、2006年「食はエンタテイメントだ！！—食の楽しみと食文化の再構築—」シンポジウムを発案・運営することにより、その戦略の一端を担ってきたものである。2005年のあるパーティの折、2005年のシンポジウムの企画書をご覧いただいた上で、「岸本さん、この方向でがんばってくださいね・・・」と河合先生におっしゃっていただいたのが、今も耳に残っているところである。

ところで、上方とは、江戸時代に、関東から見て、都のある京・大坂を中心とする地域を言う名称である。それと、関西というと、やや広く、近畿2府4県に福井県若狭地方を加えた地域となるのだろう。今回の講義を受講することによって、日本のエンターテインメントのルーツとプライドはすべて関西にあるということがわかると思う。日本の歴史をみると、日本人の頭の中には、『東の横綱、西の横綱』の言い方に代表されるように、国土にたえず焦点が2つある楕円の構造でもって発展してきた。古いものから新しいものまで、多種多様な学びを踏まえて、今こそ「関西から文化力」運動の向こうに、関西の再生を見据えたい。そして、東京都に次いで、「関西都」実現を展望しよう。

【講義計画】

- 1 この講義の学びどころ—ねらいと構想—
- 2 Osakan Hot 100 —FM802の理想と戦略
- 3 人気長寿番組の作り方
- 4 古典芸能 —能楽入門—
- 5 上方演劇—現在・過去・未来—
- 6 上方のギャング史—坂田三吉物語—
- 7 ヒット曲にみる関西—歌の三都物語—
- 8 アーティストの育て方
- 9 「食は関西にあり」くだおれ太郎奮闘記—
- 10 関西の語り部～桃山の章～
- 11 関西大道芸の現在—あなたにもできますう～
- 12 関西をスポーツで元気に
- 13 関西からコンテンツ力を
- 14 (シンポジウム) 関西から文化力そして「関西都」を—

【成績評価の方法】

1. 時々の小テストの成績
2. 定期テストの成績
3. 授業での受講姿勢（究極の場合、その場で以降の受講を停止する場合がある。）

【教科書】

適宜、資料を提供します。

【参考文献】

必要があれば、指示します。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義—キャリアデザインⅡ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	中 山 一 郎
02	春学期		
03	秋学期		
04	秋学期		

【講義概要・学習目標】

3年次生の秋からスタートする本格的な就職活動にのぞむ前に、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路や就職の選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインⅡでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。インターシップに参加希望の方は、企業が求める人材を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけることにより、さらに充実した活動を行うことができますので、受講することをおすすめします。

【講義計画】

- ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めていきます。
- ② 大学生活をより充実させるために、「なりたい自分」を考えていきます。
- ③ 表面的な就職活動のハウツーを伝授するものではなく、社会で本当に必要とされる力を学び、大学生活を通じて獲得していただけるようになります。

【成績評価の方法】

出席率・行動計画書（作成とプレゼンテーション）の総合評価

【教科書】

MY CAREER NOTE Ⅱ ベネッセコーポレーション
（ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください）必要に応じてプリント配布

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します

【備考】

<07生>のみ対象

科 目 名			
共通自由特別講義－言語と文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 原 始 子

【講義概要・学習目標】

虹の色を何色と見るか言語により異なる。また時間をどう区切り時制を分類するかも言語により異なる。これは現実を前にしたとき、どのように意味を持たせるか、どんな枠組みを設けるかが、文化、人によって異なるからである。本講義では、言語と文化に関する基礎的な理論の理解を進めていく。具体的に、民族、社会、地域、世代、男女、社会階層など特定の文化とことばを取り上げ、ことばがどう違うのか、なぜ違うのかを概観していく。

【講義計画】

授業で扱う主な項目は次のとおりである。

《前期》

- * 異なる現実・異なる分類～語彙・文法
- * サビア・ウォーフの仮説
- * 言語と非言語のコミュニケーション
- * 高コンテクスト文化と低コンテクスト文化
- * 非言語コミュニケーションの文化差
- * 方言・標準語・公用語・国語
- * 公用語の選択による文化の生成
- * 「日本における英語の第二公用語化」
- * 世界の英語と文化社会～イギリス・アメリカ・カナダ・オーストラリア
- * 新英語と文化社会～アジア・アフリカ
- * 文化の移動と言語接触～ビジン、クレオール

《後期》

- * 若者ことばと文化
- * 「アクセントの平板化」
- * 若者ことばのアイデンティティ
- * 言語イメージと外来語・借用語
- * 社会階級による発音の違い～アメリカとイギリス
- * 言葉の男女差とアイデンティティ
- * 言語選択とアイデンティティ
- * 敬意表現とは
- * 新しい敬語と文化
- * ポライトネス（丁寧表現）～日本人とアメリカ人の違い
- * 文化と含意

授業の進展、学生の関心などにより、内容が変更する場合がある。

【成績評価の方法】

前期末、後期末に筆記試験を行う。別に、授業中にレポート提出を課す。試験とレポートによって総合評価する。

重要：レポートは必修とする。

【教科書】

田中春美・幸子 社会言語学への招待 ミネルヴァ書房

【参考文献】

『シンガポールの言葉と社会』三元社 大原始子著

科 目 名			
共通自由特別講義－言葉の意味を探る			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	西 岡 武 彦

【講義概要・学習目標】

私たちが日常用いている言葉は、そのとき私たちが身を置いている環境や状況に大きく依存しています。同じ表現であっても、まったく異なった意味を持つことがあります。本講座はこのような言葉の不思議を探ることを目標にします。

【講義計画】

前期

1. 情報構造
2. 情報構造と文の意味
3. 指示対象と心的表示

以上を各テーマ4回ずつにわけて講義します。

後期

1. 語用論と意味論
2. 語用論の射程
3. 談話と文脈

以上を各テーマ4回ずつにわけて講義します。

【成績評価の方法】

小テスト、出席点、定期試験から総合的に評価します。

【教科書】

特に無し。プリントを配布します。

【参考文献】

適宜案内します。

科 目 名			
共通自由特別講義－職業を考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

皆さんは卒業後の就職のことを考えていますか。しっかりとした目標を持っている人、よくわからないけれどそろそろ考えないといけないと思っている人、大学生活が楽しくて就職なんて考えられない人、悩んで迷っている人、いろいろな状況の人がいると思います。しかし、ほとんどの人の場合、卒業・就職後の時間の多くは働くということに関わってきます。すなわち「職業を考える」ことは、これからの生き方を考えることにつながるということです。

本講義では、本学の卒業生を含めて、いくつかの業界の現役の職業人の方に講師として来ていただき、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性など、さまざまな体験を講義していただきます。講義を通して、働くことの意味やその実態について学び、自分自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうことを学習目標とします。

【講義計画】

1. オリエンテーション

授業の進め方を説明するとともに、授業を効果的に進めるために受講生が守らなければならないルールを説明します。

2. 各業界の講義

公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など

上記は2006年度の実績です。2008年度は講師の都合により変更する場合があります。

3. 全体のまとめ

講義を通して、どのようなことを理解し、どのようなことを考えるようになったか、ということをもとめます。

【成績評価の方法】

出席、レポート、期末試験の総合評価。

なお、最後にノートを提出してもらいます（コピー不可）ので、毎回講義内容を整理しておくことが求められます。

【教科書】

必要に応じて情事に提示する。

【参考文献】

必要に応じて情事に提示する。

【備考】

インテグレーション科目
＜06生＞のみ対象

科 目 名			
共通自由特別講義－職業を考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

皆さんは卒業後の就職のことを考えていますか。しっかりとした目標を持っている人、よくわからないけれどそろそろ考えないといけないと思っている人、大学生活が楽しくて就職なんて考えられない人、悩んで迷っている人、いろいろな状況の人がいると思います。しかし、ほとんどの人の場合、卒業・就職後の時間の多くは働くということに関わってきます。すなわち「職業を考える」ことは、これからの生き方を考えることにつながるということです。

本講義では、本学の卒業生を含めて、いくつかの業界の現役の職業人の方に講師として来ていただき、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性など、さまざまな体験を講義していただきます。講義を通して、働くことの意味やその実態について学び、自分自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうことを学習目標とします。

【講義計画】

1. オリエンテーション

授業の進め方を説明するとともに、授業を効果的に進めるために受講生が守らなければならないルールを説明します。

2. 各業界の講義

公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など

上記は2006年度の実績です。2008年度は講師の都合により変更する場合があります。

3. 全体のまとめ

講義を通して、どのようなことを理解し、どのようなことを考えるようになったか、ということをもとめます。

【成績評価の方法】

出席、レポート、期末試験の総合評価。

なお、最後にノートを提出してもらいます（コピー不可）ので、毎回講義内容を整理しておくことが求められます。

【教科書】

必要に応じて情事に提示する。

【参考文献】

必要に応じて情事に提示する。

【備考】

インテグレーション科目
＜07生＞のみ対象

科 目 名			
共通自由特別講義－日本の家族と家			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	大 野 啓

【講義概要・学習目標】

多くの人々にとって家と家族とがどのような違いがあるのかという事は、さほど興味のあることではないだろう。しかし、日本の文化や社会を考えてゆくうえで家や家族の存在を無視することはできない。そこで、本講では日本において家と家族とがどのように我々の生活に影響を与えているのか、家と家族とがどのような違いがあるのかについて検討してゆくことにする。

本講の受講生各位には家や家族が自分の生活にどのような影響を与えているのかについて考えるようにして欲しい。

【講義計画】

1. ガイダンス
2. 結婚と姓 - 夫婦同姓と夫婦別姓について 1
3. 結婚と姓 - 夫婦同姓と夫婦別姓について 2
4. 墓と先祖 - 家の墓はどのように形成されてきたのか 1
5. 墓と先祖 - 家の墓はどのように形成されてきたのか 2
6. 家族という束縛 1
7. 家族という束縛 2
8. 家という束縛 1
9. 家という束縛 2
10. 家族とは当たり前の存在なのか
11. 家族像の歴史 1
12. 家族像の歴史 2
13. 家成立の歴史と展開
14. 家族と家は同じものなのか？別のものなのか？
15. 予備日

【成績評価の方法】

数本のレポートによって評価する

【参考文献】

『日本の通過儀礼』八木透編 思文閣出版
『家族一世紀を超えて』比較家族史学会編 日本経済評論社
他に参考文献がある場合には講義中に紹介する

科 目 名			
共通自由特別講義－宮崎アニメの世界 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	取 屋 淳 子

【講義概要・学習目標】

“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.

This course will look at a number of Miyazaki’s movies including “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki’s works, other Japanese anime movies will also be taken up, the history of Japanese animation will be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company, which are the most widely known.

【講義計画】

By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received, and the reaction of audiences worldwide.

Movies examined will include:

○ Miyazaki Works: “Nausicaä of the Valley of the Wind”, “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, “Spirited Away” etc…

○ Other Anime Productions: “Haku-ja den”, “Akira”, “GHOST IN THE SHELL”, “Pokemon”, etc.

【成績評価の方法】

Class Work+Term Paper

【教科書】

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】

Helen McCarthy: Hayao Miyazaki: Master of Japanese Animation: Films, Themes, Artistry (1999)

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
共通自由特別講義－宮崎アニメの世界Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	取 屋 淳 子

【講義概要・学習目標】

“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.

This course will look at a number of Miyazaki’s movies including “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki’s works, other Japanese anime movies will also be taken up, the history of Japanese animation will be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company, which are the most widely known.

【講義計画】

On the basis of the analysis presented in the spring semester’s “Miyazaki Hayao’s World of Anime (I)”, Part II of this course will delve more deeply into the individual works of Miyazaki. In addition to the lecture, class discussions will be held to examine the message of Miyazaki’s work.

Part II will also consider other Ghibli features (including short Anime) and examine how they affect audiences. Further, it will take up the critical evaluation Miyazaki’s movies have received, not only in America, the homeland of Disney animation, but also in Asia.

Finally, this course will examine Miyazaki’s latest work, due to be released in the summer of 2008, and through that movie explore some of the factors involved in producing an Anime work.

【成績評価の方法】

Class Work+Term Paper

【教科書】

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】

Helen McCarthy: Hayao Miyazaki: Master of Japanese Animation: Films, Themes, Artistry (1999)

【備考】

Students are strongly recommended to take Miyazaki Hayao’s World of Anime Part I before taking Part II. 英語による授業です。

科 目 名			
共通自由特別講義－フィールドワーク入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

本講義は、複数の講師によってインテグレーション形式で行われる。

本講義のキーコンセプトは、「地域」・「ボランティア」・「社会調査」に置かれている。経済学部や経営学部の科目と関連して置かれている「インターンシップ」や「キャリアデザイン」、または「職業を考える」などの多分に実利を目的とした内容とは、その科目の意図をまったく異にした、別個の内容であることを、あらかじめ強調しておく。受講に際しては、くれぐれも誤解なきようにしてほしい。

具体的な講義内容としては、社会学の観点からする対象地域へのリサーチ（調査・検証）作業の実例や、データ（情報）の収集方法、アンケート集計やその分析方法について概説する。また、地域社会の様々な現場で、実践活動に従事した体験などが、個々の講師によって紹介される。

本講義の目的は、あくまでも地域社会でフィールドワークを積極的に行なおうとする、意欲的な学生の養成にある。人間が集団として営む「社会」に、興味関心があり、その「社会」を自ら支えていくため、意欲を持った学生の受講を強く求める。したがって、この目的にそぐわない、やる気のない学生は、本講義の受講を差し控えてほしい。

【講義計画】

本講義は、学内の複数の教員をゲスト講師に招いて、インテグレーション形式で行われる。各時間ごとのゲスト講師と、その講義内容に関しては、講義の最初に配布するシラバスによって明示する。

【成績評価の方法】

最後の時間に教場で行なう記述式の試験によって評価する。なおその際に評価の低いものに対しては、毎回採る予定の出席回数を考慮する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

特に定めない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
キリスト教学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	滝 澤 武 人

【講義概要・学習目標】

イエスという偉大な一人の人間の生きていた姿を学問的・歴史的に追い求めていくことがこの講義の目標です。「世界市民—キリスト教I」という私の科目はイエスへの入門であり、この科目はそのイエス理解をさらに深めていくものです。もちろん、この科目だけを受講してもまったく問題はありません。

イエスはまさしく「現場の人」でした。さまざまな現場へと出て行き、さまざまな人々と出会い、さまざまな活動を展開しました。イエスの仲間となったのは、その時代の「貧しい者」「小さい者」「弱い者」「罪ある者」「穢れた者」たち、すなわち、社会の最下層・最底辺で苦しんでいた人々でした。

イエスの有名な言葉のほとんどすべてが、そのような「貧困と差別」「病気と飢餓」「差別と抑圧」という厳しい現場の中から語られたものなのです。「求めよ、さらば与えられん！」も「右の頬を打たれたら、左の頬も向けよ！」も「汝の敵を愛せよ！」も、すべてそのような発言です。現場におけるきわめて現実的な発言であったからこそ、2000年の時を隔ててもなお、驚くほど新鮮で豊かな感動と生命力が宿っているのでしょう。イエスの言葉は現代でも生きているのです。

イエスを歴史的に追求するためには、かなり複雑で慎重な手続きをふまえなければなりません。はたしてどれが本当のイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどういう意図で語られたものなのか、しっかりと判断しなければなりません。それによって自分自身のイエス像をつくりあげてほしいと思います。

世界の古典中の古典である聖書と偉人中の偉人であるイエスと真正面から格闘することによって、得るところもきっと大きいと思います。「世界の市民」にも結びつくでしょう。真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を大いに期待しています。もちろん、「信仰」の有無とはまったく関係なく、誰でも自由に受講できます。

【講義計画】

私の著書『イエスの現場』に基づき講義する予定です。

1. 課題と方法
2. 山上の説教
3. ビデオ (1)
4. 乞食 (1)
5. # (2)
6. # (3)
7. 貧困・飢餓・穢れ (1)
8. # (2)
9. 病気・障害・悪霊 (1)
10. # (2)
11. # (3)
12. 罪人・悪人・盗賊 (1)
13. # (2)
14. # (3)
15. ビデオ (2)
16. 徴税人・娼婦・日雇い・奴隷 (1)
17. # (2)
18. 異邦人・サマリア人・ガリラヤ人 (1)
19. # (2)
20. 離縁・姦通・寡婦・子供 (1)
21. # (2)
22. 神の国・闘い (1)
23. # (2)
24. 受難物語 (1)
25. # (2)
26. 復活物語
27. イエスのように!
28. ビデオ (3)

【成績評価の方法】

試験 (85点)・レポート (3回・15点) の予定です。最初の授業時間に説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】

滝澤武人 イエスの現場～苦しみの共有 世界思想社
新共同訳 新約聖書 ギデオン協会版
キリスト教センターで配布予定です。毎時間必ず持参してください。

【参考文献】

荒井献『イエスとその時代』(岩波新書)
田川建三『イエスという男』(作品社)
大貫隆『イエスという経験』(岩波書店)
滝澤武人『人間イエス』(講談社現代新書)

科 目 名			
キリスト教史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

キリスト教との関わりで展開された人類の歴史について概観する。特に、その制度の展開、聖典の役割、文化との関係を中心テーマとする。これらを通して、現代世界が抱える諸課題にキリスト教がどのように取り組む可能性があるのかを探る。導入に、ダン・ブラウン著『ダ・ヴィンチ・コード』を用いる。

【講義計画】

1. 授業の進め方：課題、評価基準、用語
2. 歴史の学びかた 1
3. 歴史の学びかた 2
4. 歴史の学びかた 3
5. イエス 1
6. イエス 2
7. 初代教会 1：信仰
8. 初代教会 2：礼拝
9. キリスト教の国教化
10. 西ローマ帝国の宣教
11. ヨーロッパ社会のキリスト教
12. 中世のキリスト教
13. 神秘主義
14. ルネサンス
15. 宗教改革 1
16. 宗教改革 2
17. キリスト教と産業革命
18. キリスト教と海外宣教
19. 宗教と現実社会
20. 諸宗教とキリスト教
21. 宗教とスピリチュアリティ
22. キリスト教の国家観とその歴史
23. キリスト教の福祉観とその歴史
24. キリスト教の戦争観とその歴史

【成績評価の方法】

1. 最低20回の出席
2. 3本のブックレポート
3. 学期末試験

【教科書】

『聖書』
ダン・ブラウン『ダ・ヴィンチ・コード』上・中・下 角川文庫

【参考文献】

Lesson File上に掲示する

科 目 名			
銀行論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実証的に学習する。規制金利体系下の銀行行動と金融自由化後の銀行行動の比較を通して、実際の銀行機能を理解する。また、バブル崩壊後の金融危機時における銀行機能の麻痺状況について、金融行政の対応を中心に学習する。なお、近年の金融市場におけるリスクに対する認識の高まりに鑑み、金融におけるリスクについても学習する。

更に、今後の金融システムを展望すべく、銀行を取り巻くさまざまな問題について学習する。具体的には、金融コングロメリット化の問題、地域金融問題、中小企業金融問題などについて学習する。また、銀行の海外での活動について外国銀行と比較検討しながら学習する。

【講義計画】

第1章 概論

1. 金融論と銀行論の相違点
2. 通貨、マネーの意味

第2章 日本の銀行制度

3. 日本の銀行制度（銀行法）
4. 日本の金融市場と銀行の組織
5. 受信業務（預金の受け入れ）
6. 決済・為替業務（手形・小切手）
7. 与信業務
8. 国際業務
9. 金融自由化以前の銀行システム
10. 金融自由化の意味（目的、狙い）
11. 金融自由化後（不良債権の発生）

第3章 ファイナンス

12. 金融商品のリスクの考え方
13. 金融商品のリスクとは何か
14. 金融商品の価値
15. キャッシュフロー・モデル
16. バランス・シート問題
17. リスク・マネジメント

第4章 銀行を巡る諸問題

18. 不良債権問題の発生
19. 銀行破綻の経緯
20. 自己資本比率規制
21. 金融監督行政の変化と自己査定制度
22. 金融改革プログラムの目的と銀行の対応
23. 地域金融機関の経営問題
24. 産業再生—金融と事業再生の関わり
25. リレーションシップ・バンキング
26. 多国籍銀行の展開

第5章 金融機能の変化と分化

27. 市場型間接金融への移行
28. 新しい金融手法

29. 期末テスト

【成績評価の方法】

小テスト 6回 各10点 計60点
期末テスト1回 40点
合計 100点

【教科書】

後日指定する（生協にて販売予定）

【参考文献】

鹿野 嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
西村 吉正「日本の金融制度改革」（東洋経済新報社）
津田 和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）
堀内 昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

科 目 名			
金融論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	木 村 二 郎

【講義概要・学習目標】

ファンド資本主義、サブプライム問題と金融不安、金融政策と景気動向、電子マネーなど、貨幣・金融に関するニュースを絶えず私たちは見聞きする。私たちが生活している現代の経済社会を理解する際に、貨幣・金融に関する知識や理論は必要不可欠である。この講義では、貨幣・金融に関する基礎理論、現代金融と日本経済、情報化・グローバル化と現代金融を3つの柱にして解説していく。貨幣・金融に関する理論・政策・制度・歴史を日本経済と世界経済の新しい動向を踏まえて、出来るだけ分かりやすく講義する予定である。学習目標は、新聞・テレビなどの経済ニュースが簡単に理解できるような基礎学力を養い、経済社会についての見識を持てるようになることである。

【講義計画】

シラバス 授業計画（金融論、08）

基本的にテキストに沿って、以下の順序で講義を行う予定である。

- 1、金融とは
- 2、貨幣
- 3、金融 直接金融と間接金融
- 4、銀行 決済システム1
- 5、銀行 決済システム2
- 6、銀行 信用創造1
- 7、銀行 信用創造2
- 8、企業と金融1
- 9、企業と金融2
- 10、消費者と金融
- 11、金融市場と金融資産
- 12、擬制資本とデリバティブ
- 13、景気と金融1
- 14、景気と金融2
- 15、国債膨張と金融1
- 16、国債膨張と金融2
- 17、中央銀行と金融政策
- 18、金融政策の展開1
- 19、金融政策の展開2
- 20、金融政策の展開3
- 21、金融政策の展開4
- 22、金融政策の展開5
- 23、金融行政の転換1
- 24、金融行政の転換2
- 25、これからの金融1
- 26、これからの金融2
- 27、これからの金融3
- 28、まとめ

諸事情（受講者の理解度など）により講義日程を変更する場合があります。

【成績評価の方法】

学年末試験を基本に据え、授業時間を実施する小テストを加味して総合的に評価する。

【教科書】

川波洋一・上川孝夫編 現代金融論 有斐閣

【参考文献】

関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年。
日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2004年。
三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門（2008年度版）』日本経済新聞社、2008年。

科 目 名			
ケアマネジメント			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	川 井 太加子

【講義概要・学習目標】

講義では、利用者の自立支援に向けた目標指向型プランについて、要介護等高齢者の機関、在宅で活用されているチャートを利用して、ケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習を交えて学習する。事例については、実践現場で活躍されている専門職を招いて具体的なケアマネジメントについて学ぶ。

【講義計画】

- 1、オリエンテーション ケアマネジメントとは何か、その必要性
- 2、介護保険におけるケアマネジメント（1）
- 3、介護保険におけるケアマネジメント（2）
- 4、ケアマネジメントの援助過程（1）
- 5、ケアマネジメントの援助過程（2）
- 6、ケアマネジメントと社会資源
- 7、ケアマネジメントと家族支援
- 8、ケアマネジメント（事例1）高齢者
- 9、ケアマネジメント（事例2）障害者
- 10、ケアマネジメント（事例3）精神障害者
- 11、ケアマネジメント（事例4）知的障害者
- 12、サービス担当者会議、福祉・医療・保健の連携について
- 13、まとめ
- 14、まとめ
- 15、テスト

【成績評価の方法】

授業への参加度、出席、テストにより総合的に評価する。

【参考文献】

初回講義で指示する。

科 目 名			
経営学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	村 上 伸 一

【講義概要・学習目標】

この講義は「初めて経営学を学ぶ」皆さんや、初心に戻り「経営学再入門を志す」皆さんのために展開されます。

多くの皆さんは卒業後、会社や官公庁などに就職したり、あるいはベンチャー企業を起業したり、NPOを立ち上げたりするでしょう。しかし、あなたは会社や官公庁、NPOなどの組織について、高校生よりもどれくらい多くそして深く知っていますか？

現代社会は膨大な数の組織から成立しています。この講義では、現代産業社会の構成に不可欠な企業を主たる考察対象にして、組織の本質、組織の運営（経営管理）、組織の戦略について、主に日米のビジネス・ワールドをビデオなども活用して概観しながら、基礎的な考察を進めていきます。

好むと好まざるにかかわらず、この世に生を受けた以上、私たちはこの組織社会を生き抜いていかなければなりません。経営学の基礎を学ぶことは、現代社会人の基本的教養を身につけることになると私は確信しています。学習においては幅広く知識を身につけることよりも、できるだけじっくり考えることを重視する予定です。そして、何よりも知的なおもしろさを感じていただく。これが当面の最大の学習目標です。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イントロダクション
- 第3回 現代の経営の諸相
- 第4回 現代社会と経営
- 第5回 企業経営と経営管理者
- 第6回 経営管理者の職能
- 第7回 経営と経営学
- 第8回 経営学成立小史
- 第9回 日本の近代経営と経営学小史
- 第10回 経営学説の現代的意味
- 第11回 経営学説小史（1）
- 第12回 経営学説小史（2）
- 第13回 経営学説小史（3）
- 第14回 経営学説小史（4）
- 第15回 中間試験
- 第16回 現代組織の諸相
- 第17回 経営の場としての組織
- 第18回 個人の限界と協働
- 第19回 組織の理論
- 第20回 複合組織
- 第21回 組織の存続
- 第22回 組織と企業
- 第23回 組織構造形態
- 第24回 組織と環境
- 第25回 現代の企業戦略の諸相（1）
- 第26回 現代の企業戦略の諸相（2）
- 第27回 現代の企業戦略の諸相（3）
- 第28回 総括

【成績評価の方法】

中間・期末試験成績により評価します。ビデオや教科書を利用して、ミニレポートを講義中に書いていただき、それを評価に若干加える可能性もあります。

【教科書】

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂4版）』創成社

【参考文献】

適宜紹介します。

科 目 名			
経営学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	今 木 秀 和
02	秋学期		今 木 秀 和
03	秋学期		野 田 俊 範
04	秋学期		野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設されている諸科目のうち、経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、大まかなイメージを持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいのか、という点についてもガイドします。

この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2セメスター）から自覚をもって、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）を進めていけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

【講義計画】

配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出席して、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

1. 経営学、商学とはどんな学問か—全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主な内容）
2. 会社の仕組みはどのようになっているのか—企業論
3. 会社や組織はどのようにして運営されているのか—経営管理論
4. ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいか—経営労務論
5. 会社ではどのようにしてモノを作っているのか—生産管理論
6. 商品流通の仕組みと販売について—流通論、マーケティング論
7. 会社はおカネをどう集め・どのように運用しているのか—経営財務論
8. 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業について—銀行論、保険論、証券論
9. 国際化時代の会社はどう変わってきているのか—国際経営論、異文化間コミュニケーション論
10. 中小企業の直面する問題と起業家について—中小企業論
11. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方について—組織倫理学
12. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しよう—環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
13. 就職活動、キャリア形成は入学時から始まっている—経営学部卒が有利な職業の紹介、学科履修との関連づけ、キャリアセンター職員の話をお聴く
14. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

【成績評価の方法】

- ①期末テストの結果
- ②講義中に随時指示する提出レポートなどによる総合評価とします。

【教科書】

テキストは使用しませんが、補助テキストとして本学経営学部において開設されているいくつかの科目の概要をまとめた資料がありますので、最初の時間にそれを配付します。

【参考文献】

適宜指示します。

なお、特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを薦めます。授業のときに必要に応じてひいてみるほか、平日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んでください。

科 目 名			
経営学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、その社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【講義計画】

- I. 経営学史の方法
 1. 経営学史研究の意義
 2. 経営学史研究の課題
- II. ドイツ経営学の発展
 1. 私経済学の成立
 2. 経営経済学の確立
 3. 経営社会学の成立
 4. 経営経済学の展開
 5. 転換期の経営経済学
- III. 現代のドイツ経営学
 1. ドイツ経営学の新展開
 2. ドイツ経営学の意義と課題

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。
面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科 目 名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で十分な条件や物事および考え方とは何かを明らかにすることをめざしている。

その際、いくつかの点を考慮する必要がある。とりわけ、以下の2つの視座ないし態度が重要である。まず第1に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、一方では、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられ、それらに制約を受ける。他方では、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。したがって、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業との関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方から捉えていく態度である。

本講義では、この様な2つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。

【講義計画】

1. 生活を支える企業 (第 1, 2回)
2. 環境の変化と企業経営 (第 3, 4回)
3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義 (第 5, 6回)
4. 企業は誰が経営し、動かしているのか (第 7, 8回)
5. 企業は何をめざして活動しているのか (第 9, 10回)
6. 企業が利用できる経営資源にはどのようなものがあるか (第11, 12回)
7. 企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか (第13, 14回)
8. 企業の組織はどのように動いているのか (第15, 16回)
9. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか (第 17, 18回)
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか (第19, 20回)
11. 組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか (第 21, 22回)
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか (第23, 24回)
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか (第25, 26回)
14. 21世紀的文脈と経営学の新しい視座 (第27回)
15. 経営学の21世紀的課題 (第28回)

【成績評価の方法】

不定期小テスト、レポートおよび春学期末試験の総合評価。

【教科書】

片岡信之、斉藤毅憲、他 はじめて学ぶ人のための経営学 ver. 2 文真堂
佐々木恒男、高橋由明、渡辺 峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学 ver. 2』文真堂、2006年。

【参考文献】

その都度必要に応じて提示する。

科 目 名			
経営学特別講義－国際財務会計基準			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 理梨亜

【講義概要・学習目標】

International Financial Reporting Standards are now considered worldwide as global standards for international corporate financial reporting.

In this course we will study about the importance of these standards, how they started and how they became to be accepted worldwide.

We will also discuss about the contents of some of the main standards.

【講義計画】

1. International Accounting and Harmonization Process
2. International Accounting Standards Committee (IASC) and International Accounting Standards
3. Process of Restructuring IASC
4. International Accounting Standards Board (IASB) and International Financial Reporting Standards
5. IASB Constitution
6. IASB Due Process
7. Convergence Between IFRS and US GAAP
8. Efforts Towards Convergence Between IASB and ASBJ
9. Convergence of Accounting Standards Worldwide
10. Financial Reporting in Emerging Capital Markets
11. Financial Reporting according to IFRS
12. Students Presentation
13. Students Presentation
14. Discussions on Future Developments in International Financial Reporting

【成績評価の方法】

The final marks will be decided according to the work done in class, presentations, reports and tests performed.

【教科書】

The necessary material will be printed and distributed in each class.

【参考文献】

-International Financial Reporting Standards (IFRSs), International Accounting Standards Board.

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
経営学特別講義－日本企業のグローバル戦略			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

This class is especially for exchange students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy.

In recent years business environment around Japanese firms is rapidly changing, and globalization is more increasing. The aim of this course is to examine several problems that contemporary Japanese companies have been faced with in the changing business environment and the global economy.

【講義計画】

Lectures will cover following topics:

The progress of Japanese Economy.

The progress and diversification of Japanese International Trade.

The role and functions of "Sogo-Shosha".

Mitsui's history and evolution.

Culture Diversity Management.

Jointventure business in China.

Management of production lines.

Remarkable economy in India.

What makes up a successful businessperson.

Integrity and Flexibility in Global Business.

Marketing strategy.

The fundamentals of Credit management and Debt Collection.

Intellectual Property Right.

Revitalization of Osaka Economy.

Lectures are given by guest speakers who have respectively large experiences in big Japanese general trading companies.

【成績評価の方法】

Students should attend every class and submit a paper each month.

Assessment will be based on classroom participation and papers.

Classroom participation 30% Papers 70%

【教科書】

No textbook.

【参考文献】

Handouts will be provided.

【備考】

Lectures are conducted in English.

英語による授業です。

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特別講義－日本の経営の変遷			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	井 口 良 樹

【講義概要・学習目標】

Management styles of Japanese companies, formed during the period of high economic growth since the latter half of 1960s, changed a lot in the period of economic bubble of the latter half of 1980s and the bubble-burst period of 1990s.

We are going to study how the so-called “Japanese Style of Management” has transformed into what we see today in the 21st century.

【講義計画】

1. General Outline of the Lectures on “Japanese Style of Management.”
2. Economic Recovery of Japan after World War II.
3. Collapse of the Economic Bubble in 1990s.
4. Management Philosophy of Major Japanese Companies.
5. Lifetime Employment System.
6. Seniority-based Wage and Promotion System.
7. Intra-company Labor Union and the Labor-Management Relationship.
8. Internationalization Management.
9. Organization Management and the Divisional System.
10. Mergers and Acquisitions in Japan
11. Japanese Corporate Governance I.
12. Japanese Corporate Governance II.
13. Collapse of Enron Corporation I.
14. Collapse of Enron Corporation II

【成績評価の方法】

Preparing a report required on certain features of “Japanese Management.”

【参考文献】

“21st-Century Japanese Management” written by James C. Abegglen, published by Palgrave Macmillan.

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
経営学特別講義－日本の経営実務			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	バク 朴 テ ヨシ 大 栄

【講義概要・学習目標】

From the experience of accounting, auditing and tax profession, we have faced a lot of comparative Japanese business practice with western countries. In this lecture, we demonstrate some unique cases of Japanese accounting and tax practice that may be useful to understand not only Japanese accounting and tax, but also Japanese business culture

【講義計画】

1. Introduction to the outline of income tax system for corporations in Japan
2. Tax administration by the national tax authorities
3. Tax planning to control tax cost by the management of taxpayer in Japan
4. Current topics on international tax matters
5. Business Practice in Japan, compared with western countries
6. Accounting and Auditing Practice in Japan
7. Management Assessment and Audit concerning Internal Control Over Financial Reporting (“J-SOX”)
8. Semi annual financial statements
9. Consolidated financial statements
10. Fraud and audit failure
11. Accounting standards in major overseas countries and current status of Japan GAAP
12. Major differences between IFRS and Japan GAAP
13. Further movement of Japan GAAP (Convergence into IFRS)
14. Sum

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted and test results.

【教科書】

Handout materials will be provided at each class

【参考文献】

References will be indicated in the class

【備考】

英語による授業です。
インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－英文簿記会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	朴 大 栄

【講義概要・学習目標】

ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が不可欠となっている。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となる。

国際的な会計スキルを判定するための検定試験が東京商工会議所を中心として実施されており、毎年数多くの受験生を出している。受験者は、学生のみならず、ビジネス関係者の間でも、今後、急増していくものと予想される。

本講義は、このBATIC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講されている。講義を担当するのは、国際業務に関わってきた公認会計士の皆さんである。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定である。簿記についてのある程度の事前知識が必要であるので、「商業簿記」を履修済みであること、ないし日商簿記検定試験3級合格を履修条件としている。国際ビジネスに関心のある学生は、本講義とあいまって、経営学特講（日本の経営実務）を受講することを勧める。

なお、本講義は日本語で進められる。

【講義計画】

1. 講義内容説明 / Basic concepts of accounting and bookkeeping
2. Transaction of Journal entries
3. Journals and Ledgers
4. Trial Balance
5. Adjusting Entry I
6. Adjusting Entry II
7. Accounting for inventory and Cost of goods sold
8. Closing Entries
9. Financial Statements and Worksheets
10. Generally Accepted Accounting Principals
11. Internal Control
12. 予備日／総復習テスト
13. 予備日／総復習テスト
14. (期末試験)

【成績評価の方法】

毎回実施するミニテスト、学期末テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

BATIC公式テキスト『Subject 1』東京商工会議所
BATIC問題集『Subject 1』東京商工会議所

【参考文献】

講義中に適宜指示する

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－企業人に学ぶ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

この講義は、諸君の中に眠っているかもしれない能力やパワーに諸君が自ら気づき、力を発揮してもらうことを第一の目的としている。主な講義内容は、①企業の実態について学ぶこと、②働くことについて具体的なイメージを描くこと、③職場における問題の発見とそれへの対処についてまなぶこと、④企業の方と上手なコミュニケーションをとること等である。講師は、現在会社で重要な働きをしている本学のOBを中心とし、受講資格は3回生に限定している。授業は小人数で行われ、業界や企業に関する知識や話題提供のほか、課題作成、グループディスカッション等を中心にすすめられる。また、講師との自由な対話も予定している。

講義は、原則的に土曜日の午後に、5回実施する予定である。したがって1回の授業は、通常の3回分を行う。この講義は、真剣に自らの将来について考え、やる気をもって進んでいく学生のみを対象とする。したがって、作文や面接等の事前の審査を行う場合もある。

【講義計画】

- (1) 1日3時間の授業を合計5回実施する。
- (2) 実施曜日および時間:土曜日の2.3.4時限を予定している。
- (3) 講義内容はおおむね次のとおりである。
 - ①薬品業界について
 - ②製造業の仕事
 - ③金融業・保険業の仕事
 - ④情報産業の仕事
 - ⑤百貨店・流通業界の仕事

【成績評価の方法】

出席、受講態度、レポート等を総合的に判断する。

【教科書】

プリントや資料を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－国際ビジネス・変化と対応			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	北 條 弘 司

【講義概要・学習目標】

日本企業は業績の多くを海外に依存している。近年、国と業界を超えた競合の拡大、資本移動の質的な転換、国と国の経済施策の先陣争い、など国際ビジネス環境は大きな変化が見られ、これらの変化に対応し、新しい市場開拓とビジネス推進が可能な人材が求められている。

この講義は、海外販路の開拓・販売促進・現法経営 などを実践的に学び、経営学の理論やマーケティングの定説が実際のビジネス活動に組み込まれている状況の理解を進め、国際ビジネス推進上の課題対応の視点と課題対応能力を培う講義としたい。

【講義計画】

1. 国際ビジネスの基礎：
 *オリエンテーション、国際ビジネス 第1回
 *対外直接投資、日本の貿易相手 第2回
 *失われた10年、日本の国際競争力 第3回
2. 異文化接触と国際経営環境：
 *文化の違い、コミュニケーション・コンテキスト 第4回
 *異文化経営、組織文化、海外拠点の特性 第5回
 *海外拠点の組織運営 第7回
3. 国際ビジネス展開：
 *グローバル・マーケティング、ブランド構築 第8回
 *競争戦略1：価格戦略、企業通貨 第10回
 *競争戦略2：SWOT分析、PPM、SCM 第11回
4. 事例研究：
 *事例1：中国進出した日系企業の事業実態 第6回
 *事例2：家電各社の輸出マーケティング 第9回
5. 国際経営資源管理：
 *予算計画、国際財務連結、財務諸表 第12回
 *外国為替のメカニズム（マック指数） 第13回
 *国際人的資源管理、業績評価、海外駐在員 第14回
 *期末試験 第15回

【成績評価の方法】

期末試験：60%、レポート：40%、を基準に総合評価

【教科書】

教科書は使用しない。必要資料は講義時に配布する。

【参考文献】

- *理論とケースで学ぶ国際ビジネス（新版）江夏健一・桑名義晴 / 編著 同文館出版2006/11
 *国際経営（国際ビジネス戦略とマネジメント）根本 孝・茂垣 広志 編著 学文社 2006/9

科 目 名			
経営学特講－証券市場と業界の現状と展望			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	松 尾 順 介

【講義概要・学習目標】

本講義は、証券界で活躍中の第一線の実務家を講師に招き、証券市場と証券業界の現状と展望について講義を行う。講師陣には、証券各社、証券取引所、証券関連団体の担当者を招いている。

各講師陣は、担当している業務分野の内容や現状を紹介した上で、所属会社の特色や競争優位性を説明し、今後の展望を提示する。さらに、証券市場や投資について、知っておくべき知識や理論についても実務的な観点から解説する。

近年、銀行や証券会社など、金融系への就職志望者が増加しており、このような志望者にとって、本講義は有益であることは間違いない。また、そうでない学生にとっても、企業の財務担当者や個人投資家として、将来証券市場や証券会社とかかわることが予想されるため、本講義の内容は有益であろう。

【講義計画】

- 1 はじめに
 2 証券市場の基礎知識（1）
 3 証券投資の基礎知識（2）
 4 取引所の売買・決済業務
 5 投資銀行業務
 6 資産管理業務
 7 投信関連業務
 8 リテール業務（1）
 9 リテール業務（2）
 10証券化関連業務
 11プリンシパル投資
 12信用取引
 13先物・オプション取引
 14不公正取引の禁止

【成績評価の方法】

期末テストで評価する。なお、出席点は一切考慮しない。

【参考文献】

- 日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2004年版』日本証券経済研究所
 証券広報センター編『証券市場2005』中央経済社
 東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
 川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社
 川村雄介著『最新証券市場』財経詳報社

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－日本の文化と社会			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	金 本 伊津子
02	秋学期		

【講義概要・学習目標】

The course presents a descriptive introduction to contemporary Japanese culture and society, and offers some concepts that will enable you to understand and communicate with Japanese people. This course welcomes anyone who would like to clear the mystique of Japanese culture.

【講義計画】

Lecture topics are as follows;

- (1) Introduction (Course goals and approach)
- (2) Geography
- (3) Origins of the Japanese People and Language
- (4) Historical Background
- (5) Occupations, Work Life and Economy
- (6) Minority
- (7) Population, Reproduction and Sexuality
- (8) Gender in Public and Domestic Life
- (9) Education and Youth
- (10) The Elderly
- (11) Religion and Ceremony
- (12) Afterlife
- (13) Japanese Animation
- (14) "Gaijin": Japanese Pattern of Communication with Foreigners
- (15) Final Exam

【成績評価の方法】

Requirements: There is a take-home final examination. And there will also be three quizzes given in class.

Grading: The percentage of the final grade for each of the requirements is: a take-home final exam, 40%, quizzes, 45%, attendance and participation, 15%.

Please Note: There will be no make-up exams or quizzes except for unusual, well-documented circumstances.

【教科書】

Handouts and reading materials will be provided in class.

【参考文献】

A bibliography will be announced in class

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
経営学特講－ビジネスと文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	三 宅 亨

【講義概要・学習目標】

With the coming of the 21st century, the world is changing rapidly than ever. Steadily advancing IT revolution is changing our society, industry and lifestyles. In addition, ongoing globalization requires better communication and closer cooperation across cultures among other things. In this class, a wide range of topics will be taken up for those who aspire to be "the citizens of the world". The class will be taught by different faculty members each week, and conducted entirely in English. Students are encouraged to participate in lively discussions.

【講義計画】

Tentative List of Topics to be presented:

1. Globalization and English
2. Japanese Agriculture
3. Deregulation of Economy & Corporate Restructuring in Japan
4. Japanese Retailing Industry
5. Steel Industry in Japan and the World
6. Insurance Business in Japan
7. Japanese Culture and Communication
8. Cultural Differences

There will be some minor changes before the first class starts. The final list of the topics will be distributed in class at the beginning of the semester.

【成績評価の方法】

Strict attendance is required. In place of the final examination, the students are required to submit papers written in English on several topics to be presented during the course.

【教科書】

No textbooks are used in this course. Instead, handouts will be provided in class.

【参考文献】

To be announced in class.

【備考】

英語による授業です。
インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講—保険総合講座			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

現在の社会において、保険は広く社会に浸透し、生活の隅々にまで関係をもっている。しかし、ほとんどの人は保険に関しては不十分な知識しか持ち合わせていない。それは、保険の仕組みが比較的難解であることと、近年きわめて多様な保険が登場していること等によるものである。

この授業では、生命保険、損害保険および社会保険のうちの代表的なものについて説明する。講師は、原則的に毎回異なる。全体の総括等は、武田久義が行う。

【講義計画】

- (1) 全体の説明等
- (2) 保険に関連する法律、保険約款の読み方
- (3) 生命保険事業
- (4) 生命保険
- (5) 医療保険
- (6) 生活と保険—私的年金を中心に—
- (7) 生活と保険—介護関連保険—
- (8) 損害保険事業
- (9) 自動車保険①
- (10) 自動車保険②
- (11) 傷害保険
- (12) 火災保険
- (13) その他の保険
- (14) 全体のまとめ

【成績評価の方法】

レポートと出席による。

【教科書】

プリント・資料等を配布する。

【参考文献】

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営管理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	村 上 伸 一
02	秋学期集中		

【講義概要・学習目標】

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、1世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場合は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様な膨大な組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イントロダクション
- 第3回 現代の経営管理の諸相
- 第4回 経営管理とは何か
- 第5回 経営管理者の階層
- 第6回 経営管理者の職能
- 第7回 経営学と経営管理論
- 第8回 経営管理学説の今日の意味
- 第9回 テイラーの科学的管理法
- 第10回 人間関係論と人間資源論
- 第11回 管理過程論
- 第12回 近代経営管理論（1）
- 第13回 近代経営管理論（2）
- 第14回 基礎理論としてのバーナード理論
- 第15回 中間試験
- 第16回 現代組織の諸相
- 第17回 経営組織のミクロ理論
- 第18回 経営組織のマクロ理論
- 第19回 経営組織論の総括的展望
- 第20回 戦略的経営管理とは何か
- 第21回 経営戦略の内容とレベル
- 第22回 経営多角化と投資利益率
- 第23回 企業ポートフォリオ分析
- 第24回 競争戦略論
- 第25回 持続的競争優位の源泉としての独自能力
- 第26回 グローバル戦略経営管理論
- 第27回 価値創造の経営管理論の展望（1）
- 第28回 価値創造の経営管理論の展望（2）

【成績評価の方法】

中間・期末試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加える可能性もありますので、毎回教科書を持参下さい。

【教科書】

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂4版）』創成社

【参考文献】

眞野 脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。
図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

科 目 名			
経営工学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	明 石 吉 三

【講義概要・学習目標】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数学的接近法である。この分野は英国、米国での軍事研究を発端に生まれた。その後、IE (Industrial Engineering)、オペレーションズ・リサーチ、経営科学という研究分野が生み出され、様々な経営上の課題の解決に寄与してきた。特に、我が国の戦後の経済発展に多大な貢献をしてきたといえる。

本分野は、数理的解析・計画手法、意思決定手法、生産管理、品質管理、在庫管理等分野別理論等、極めて広範囲である。本講義では、受講生が文系諸君であることを念頭に、経営工学のアプローチの意義、手法、特に、モデル化の重要性を講義する。

【講義計画】

以下の内容を講義する予定である。

- (1) 経営工学の発展経緯
- (2) 数理計画法の基本
 - ①線形計画法
 - ・線形計画問題
 - ・線形計画問題の解法
 - ・線形計画問題の事例
 - ②PERT手法
 - ・プロジェクト管理
 - ・プロジェクトのPERT表現
 - ・プロジェクトの解析
 - ・様々なプロジェクト
 - ③組合せ問題
 - ④近年の話題：ニューロアルゴリズム
遺伝的アルゴリズム
- (3) 在庫管理手法
 - ①在庫管理問題
 - ②在庫管理手法：・EOQモデル
・ABC分析
 - ③品質管理：・品質管理とは
・品質管理手法
・総合的品質管理 (TQC)
・ISO9000、PL法
 - ④その他：意思決定理論、予測理論

【成績評価の方法】

レポートおよび期末試験による総合評価

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

栗原謙三、明石吉三共著：『経営情報処理のためのオペレーションズリサーチ』、コロナ出版
E. Turban, J. R. Meredith: "Fundamentals of Management Science", IRWIN

科 目 名			
経営財務論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	今 木 秀 和

【講義概要・学習目標】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金(カネ)、情報の資源がそれである。このうち金(カネ)という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金(カネ)は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部から調達する。調達した資本は、目的や用途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 財務管理とは (1)
3. 財務管理とは (2)
4. 財務的意思決定の基礎 (1)
5. 財務的意思決定の基礎 (2)
6. レバレッジと資本コスト (1)
7. レバレッジと資本コスト (2)
8. キャッシュフローと財務分析 (1)
9. キャッシュフローと財務分析 (2)
10. 資金繰りと財務管理・資金計画 (1)
11. 資金繰りと財務管理・資金計画 (2)
12. 投資案の評価 (1)
13. 投資案の評価 (2)
14. 投資価値の創造 (1)
15. 投資価値の創造 (2)
16. 投資価値の創造 (3)
17. 長期資本調達の制度 (1)
18. 長期資本調達の制度 (2)
19. エクイティ・ファイナンス (1)
20. エクイティ・ファイナンス (2)
21. 負債ファイナンスと証券化 (1)
22. 負債ファイナンスと証券化 (2)
23. 配当政策と自社株買い (1)
24. 配当政策と自社株買い (2)
25. M&Aの広がり企業財務 (1)
26. M&Aの広がり企業財務 (2)
27. 新しい日本的経営の構築と企業財務 (1)
28. 新しい日本的経営の構築と企業財務 (2)
29. 学期末試験

【成績評価の方法】

成績評価は学期末試験を基本とする。経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標であるので、基礎知識の習得がどの程度できているかを試験することによって判定する。

学期の途中で学習を整理し、理解を深めるために数回の小テストを行い、数回のレポートの提出を求める。

期末テスト、小テスト、レポート、出席状況を総合して成績をつける。期末テストが基本であり、その他は成績に加味する要素と考えている。

出席を毎回取る。出席カードにその都度講義の纏めを書いてもらう。合わせて質問、要望があれば記入してもらう。質問・要望には、次回の講義で答える。学生が参加する双方向の方式を心掛けて講義を進める。

【教科書】

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄共著 現代の財務管理 有斐閣

【参考文献】

高橋文郎・井出正介著『経営財務入門第3版』日本経済新聞社
若杉敬明著『入門ファイナンス』中央経済社
久保田啓一著『コーポレート・ファイナンス』東洋経済新報社

科 目 名			
経営史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	長谷川 彰

【講義概要・学習目標】

経営史学は、比較的新しい学問である。凡そ50年前に、我が国に紹介され、その後着実に発展してきている。本年度の講義では、まず、経営史学の成立と発展の過程を明らかにしていきたい。そして、その過程で生まれてきた企業者史学についても触れていきたい。そして、具体的な事例研究は、その場を日本に求め、前近代社会の商業・経営史、近代社会の経営史、現代社会の経営史を明らかにしていきたい。

【講義計画】

1. はじめに
2. 経営史学の成立と発展
3. 企業者史学の台頭
4. 企業者活動の国際比較－イギリスの場合－
5. 企業者活動の国際比較－アメリカの場合－
6. 企業者活動の国際比較－日本の場合－
7. 近世経済社会の成立
8. 近世の貨幣制度
9. 近世の流通制度－株仲間制度－
10. 近世商家の経営－三井家の場合－
11. 近世商家の経営－鴻池家の場合－
12. 近世特産物の流通－阿波藍の場合－
13. 近世特産物の流通－竜野醤油の場合－
14. 近世商家の経営理念
15. 日本的経営の原型
16. 幕末の商品流通
17. 近代社会のはじまり
18. 殖産興業政策（1）
19. 殖産興業政策（2）
20. 明治期の会社制度
21. 企業勃興
22. 近代企業者の系譜
23. 三井の近代化
24. 三井合名会社の成立
25. 戦時体制下の財閥
26. 財閥解体
27. 企業集団の形成
28. まとめ

【成績評価の方法】

試験を中心におこなう。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
経営情報技術論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	村 山 博

【講義概要・学習目標】

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが、社会人として必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】

1. 情報技術革新における我々の生活の変化
2. 情報の種類
3. 情報技術の進歩
4. インターネット社会における情報の特徴
5. インターネット社会の著作権
6. インターネット社会における知的財産
7. インターネット社会と国家の関係
8. これからの情報化社会

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により、総合的に判断して評価する。

【教科書】

村山博「経営情報技術とイノベーション」星雲社

【参考文献】

その都度指示する。

か
行

科 目 名			
経営情報技術論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	村 山 博

【講義概要・学習目標】

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが、社会人として必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】

1. 高度情報社会の現状と未来の生活
2. さまざまな情報と社会の変化
3. コンピュータの歴史
4. コンピュータによる情報表現：文字、映像、動画、マルチメディアの表現、
5. コンピュータのハードウェア：ディスプレイ、プリンター、記憶装置、
6. ソフトウェア：オペレーティング・システム、応用ソフトウェア、
7. データベースシステムとその活用
8. 通信の仕組みと各種プロトコル
9. 通信ネットワークシステム：LAN、インターネット、ブロードバンド、
10. 情報管理：電子商取引、サプライチェーン・マネジメント、電子政府、
11. ネットワーク時代の知的財産権：著作権、特許権、
12. 情報セキュリティ：暗号技術、電子認証、ウイルス対策、

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により、総合的に判断して評価する。

【教科書】

村山博「経営情報技術の活用」ふくろう出版

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	明 石 吉 三

【講義概要・学習目標】

経営学部における経営情報関連の講義は、次の4科目である。

- ・“情報技術”について学習する「経営情報技術論」
- ・“情報システム”について学習する「経営情報システム論」
- ・“情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
- ・“情報利用と計画”について学習する「経営工学」

この講義は、上の4つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また、上記の内容に加え、4つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータシステム、情報技術 (IT)、モデル化の技術が不可欠であることを理解してもらい、より広くは、様々な意思決定の局面において、論理的思考、システムの思考が大きな助けになることを理解してもらうことである。

【講義計画】

	講義日
①オリエンテーション	1
②数学基礎	2, 3
③「経営情報技術論」の基礎	4, 5, 6
④「情報システム論」の基礎	7, 8, 9
⑤「情報化組織論」の基礎	10, 11
⑥「経営工学」の基礎	12, 13
⑦まとめ	14

【成績評価の方法】

レポートおよび期末試験

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<08B生>のみ対象

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	明 石 吉 三

【講義概要・学習目標】

経営学部における経営情報関連の講義は、次の4科目である。

- ・“情報技術”について学習する「経営情報技術論」
- ・“情報システム”について学習する「経営情報システム論」
- ・“情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
- ・“情報利用と計画”について学習する「経営工学」

この講義は、上の4つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また、上記の内容に加え、4つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータシステム、情報技術 (IT)、モデル化の技術が不可欠であることを理解してもらい、より広くは、様々な意思決定の局面において、論理的思考、システムの思考が大きな助けになることを理解してもらうことである。

【講義計画】

	講義日
①オリエンテーション	1
②数学基礎	2, 3
③「経営情報技術論」の基礎	4, 5, 6
④「情報システム論」の基礎	7, 8, 9
⑤「情報化組織論」の基礎	10, 11
⑥「経営工学」の基礎	12, 13
⑦まとめ	14

【成績評価の方法】

レポートおよび期末試験

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<08B生>のみ対象

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	秋学期	2単位	村 山 博

【講義概要・学習目標】

現代社会はコンピュータやインターネットがなくては存在しないほど大きく依存している。家庭にも非常に多くの情報家電が導入され、デジタル化された情報機器が我々の生活を豊かにしている。また、コンピュータやインターネットが企業活動のプラットフォームとなり、企業における経営情報の重要性はますます増加している。本講義では、経営情報の基礎の習得を目指すものである。

【講義計画】

1. 経営情報基礎とは
2. さまざまな情報と現代社会
3. 経営情報と企業の関係
4. 顧客と企業を結ぶ経営情報
5. 企業におけるコンピュータの活用
6. コンピュータの歴史と仕組み
7. 2進数の基礎 (その1)
8. 2進数の基礎 (その2)
9. 2進数の基礎 (その3)
10. インターネットとは
11. インターネットの活用例 (その1)
12. インターネットの活用例 (その2)
13. インターネットの活用例 (その3)
14. これからの経営情報

【成績評価の方法】

レポートと期末試験により判断して評価する。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

その都度指示する。

【備考】

<08B生>のみ対象

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期	2単位	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

本講義は、経営学部の1年次における経営情報分野の基礎的な事項を学習する講義である。主な項目としては、以下の4つがある。

- ・“情報技術”について学習する「経営情報技術論」
- ・“情報システム”について学習する「経営情報システム論」
- ・“情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
- ・“情報利用と計画”について学習する「経営工学」

そこで、経営学部以外の学生諸君には、これら4つの講義のイントロダクションを理解してもらおう。また、上記の内容に加え、講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、IT（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が大きな助けとなることを理解してもらおうことである。

とくに、期末試験では数学の分野がほぼ配点の半分を占めるため、第1回目のオリエンテーションを受講し、その点を予め理解することが必要である。

なお、講義の内容が基礎的なことであるため、対象とする学生の年次は、経営学部以外の1年生である。また、経営学部生は本講義を受講することはできない。

【講義計画】

- ①オリエンテーション
- ②数学基礎
- ③「経営情報技術論」の基礎
- ④「経営情報システム論」の基礎
- ⑤「情報化組織論」の基礎
- ⑥「経営工学」の基礎
- ⑦まとめ

【成績評価の方法】

期末試験

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<08E・SS・SW・L・J>のみ共通自由

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	春学期	2単位	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

本講義は、経営学部の1年次における経営情報分野の基礎的な事項を学習する講義である。主な項目としては、以下の4つがある。

- ・“情報技術”について学習する「経営情報技術論」
- ・“情報システム”について学習する「経営情報システム論」
- ・“情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
- ・“情報利用と計画”について学習する「経営工学」

そこで、経営学部以外の学生諸君には、これら4つの講義のイントロダクションを理解してもらおう。また、上記の内容に加え、講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、IT（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が大きな助けとなることを理解してもらおうことである。

とくに、期末試験では数学の分野がほぼ配点の半分を占めるため、第1回目のオリエンテーションを受講し、その点を予め理解することが必要である。

なお、講義の内容が基礎的なことであるため、対象とする学生の年次は、経営学部以外の1年生である。また、経営学部生は本講義を受講することはできない。

【講義計画】

- ①オリエンテーション
- ②数学基礎
- ③「経営情報技術論」の基礎
- ④「経営情報システム論」の基礎
- ⑤「情報化組織論」の基礎
- ⑥「経営工学」の基礎
- ⑦まとめ

【成績評価の方法】

期末試験

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<08E・SS・SW・L・J>のみ共通自由

科 目 名			
経営情報システム論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証、組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。

本講義では、まず、そのような経営情報システムとは何かを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいくつかの先進的な事例を紹介し、その効果はどのようなものかについてケーススタディを通じて講述する。

次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、組織と情報システムの関係、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

【講義計画】

- ・経営情報システムに関する概論
- ・企業における先進的な情報システム事例
- ・経営情報システムにおける基本情報技術と情報管理
- ・組織と情報システム
- ・業務形態と情報システム
- ・まとめ

【成績評価の方法】

授業の出席状況、レポート及び期末試験で総合的に評価する。

【教科書】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

必要な都度、指示する。

科 目 名			
経営分析			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	河 合 隆 治

【講義概要・学習目標】

経営分析は、どの会社が強いのか、もしくは弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった会計情報を利用して分析する分野です。

このような分析は、会計や金融を専門とする職業に就く場合だけでなく、みなさんがどの会社に就職しようか迷った時、株式を買う時、会社の状況を財務的に把握する時に役立ちます。

本講義では、経営分析の基本的な考え方や計算方法を理解することを目的とします。経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけでなく、実際に分析する必要がありますので、講義の途中で受講生のみなさんに簡単な計算をして頂きます。本講義を修了することにより、「会社四季報」などに書かれている会社に関するデータの意味がわかるようになり、証券アナリスト試験を受けるための基礎的な力がつくこととなります。

本講義を受ける上で、経営学部の必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記や会計学の知識は、必要に応じて簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていなくても経営分析を理解することは可能です。

【講義計画】

本講義は、大まかに以下のように進めます。

- 1 経営分析とは何か
- 2 貸借対照表で何がわかるか
- 3 損益計算書で何がわかるか
- 4 会社の財務安定性はどうか
- 5 会社の収益力は十分か
- 6 会社の活性化はどうか
- 7 会社の発展性はあるのか
- 8 資金繰りは十分か
- 9 会社に勤める従業員の能力はどうか
- 10 総合的に会社の状態を分析する

講義の進捗は講義の途中で行う計算演習や受講者の理解度をみて調整します。計算演習を行いますので、受講者は毎週計算機(電卓)を持参してください。

講義計画や成績評価方法などの詳細については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

【成績評価の方法】

期末試験結果を中心とし、出席、発表を加味して評価を行います(昨年度実績：試験100点、出席10点、発表5点)

※講義受講者の様子を考慮して得点配分を決めるため、昨年同様のウエイトで評価しません

【教科書】

森田松太郎『ビジネス・ゼミナール：経営分析入門』日本経済新聞社

【参考文献】

- ・桜井久勝『財務諸表分析第三版』中央経済社、2007年。
- ・乙政正太『基本テキストシリーズ：財務諸表分析』同文館出版、2005年。

- ・ほぼ毎回必要な補助資料(プリント)を配布します。分量が多いので、ファイルを用意してください。
- ・その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

か
行

科 目 名			
経営労務論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいます。中でも、経営労務に関わる諸制度の改革が盛んです。経営労務とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの3要素のうち、ヒトに関わる管理をいいます。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右します。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした経営労務のあり方もその転換が求められています。本講義では、現代の日本企業が経営労務において直面している諸問題を可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたいと思います。

現代の日本企業が直面している経営労務の主要な問題は何かを理解すること、それが当面の学習目標となります。

【講義計画】

テキストに従って、概ねその順序で講義を進めます。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 経営労務論とは | 2. 企業経営と経営労務 |
| 3. 働く動機－モチベーション論 | |
| 4. 人を動かす－リーダーシップ論 | |
| 5. 職務設計 | 6. 組織設計 |
| 7. 雇用管理 | 8. キャリア開発 |
| 9. 人事考課制度 | 10. 専門職制度 |
| 11. 賃金制度 | 12. 福利厚生制度 |
| 13. 労使関係 | 14. 女性労働者 |
| 15. 高年齢労働者 | 16. 研究開発技術者 |

【成績評価の方法】

①期末試験の成績、②数回実施する小テストの成績、③レポートの成績、を総合して評価します。

【教科書】

奥林康司編著 入門 人的資源管理 中央経済社

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』(四訂版) 同文館、2006年。
 奥林康司・平野光俊編著『フラット型組織の人事制度』中央経済社、2004年。
 その他、講義中に適宜指示します。

科 目 名			
景気循環論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

十年以上にわたる平成不況を脱した日本経済は、2002年以来おおむね順調に回復を続けている。この景気回復のおかげで、4回生の就職状況も改善してきており、今年の就職も好調に推移したようである。しかし、アメリカのサブプライムローン問題や原油価格の高騰などによって世界経済の減速が予想されており、日本経済もその影響を受けて再び景気後退局面を迎えるのではないかと懸念されている。学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、資本主義経済において好景気・不景気の交替である景気循環がなぜ存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、マクロ経済学を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1 景気循環の定義 1
- 第3回 1 景気循環の定義 2
- 第4回 2 様々な循環とSchumpeter 1
- 第5回 2 様々な循環とSchumpeter 2
- 第6回 2 様々な循環とSchumpeter 3
- 第7回 2 様々な循環とSchumpeter 4
- 第8回 3 景気循環の測定とMitchell 1
- 第9回 3 景気循環の測定とMitchell 2
- 第10回 3 景気循環の測定とMitchell 3
- 第11回 4 景気動向指数と予測 1
- 第12回 4 景気動向指数と予測 2
- 第13回 5 景気循環理論の基礎 1
- 第14回 中間テスト
- 第15回 5 景気循環理論の基礎 2
- 第16回 5 景気循環理論の基礎 3
- 第17回 6 乗数・加速度理論 6. 1 Harrodモデル 1
- 第18回 6. 1 Harrodモデル 2
- 第19回 6. 1 Harrodモデル 3
- 第20回 6. 2 Samuelsonモデル
- 第21回 6. 3 Hicksモデル 1
- 第22回 6. 3 Hicksモデル 2
- 第23回 6. 3 Hicksモデル 3
- 第24回 7 非線形景気循環論 1
- 第25回 7 非線形景気循環論 2
- 第26回 7 非線形景気循環論 3
- 第27回 8 不規則衝撃の理論 1
- 第28回 8 不規則衝撃の理論 2
- 第29回 期末テスト

【成績評価の方法】

2回の試験の成績による。出席をとるかどうかは受講者数を見て決める。

【教科書】

教科書は指定しないが、第5章以下については参考文献1の第Ⅱ部が参考になる。なお、随時プリントを配布する。

【参考文献】

- 1. 浅利一郎著『IT時代のマクロ経済学』(実教出版社)
- 2. 置塩信雄編著『景気循環』(青木書店)
- 3. J. R. ヒックス(著) 古谷弘(訳)『景気循環論』(岩波書店)
- 4. 長島誠一著『景気循環論』(青木書店)

科 目 名			
経済開発論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

テーマ：経済開発の歴史と現状

イラクやアフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。

それではどうすれば経済発展・経済開発に成功することができるのだろうか。それは経済発展の歴史に学ぶしかない。そこで産業革命以後、20世紀初めまでの経済発展の歴史の説明を行う。

また経済発展は私たちに豊かな生活をもたらすと同時に色々な弊害も引き起こしている。その中でもっとも深刻と思われているのは環境問題であり、資源問題であり、人口問題である。本講ではこれらの問題を取り上げていく。中心となるのは資源・環境問題であり、これらの問題が果たして経済成長をストップさせるかどうかを考えていく。

最後に経済発展に必要な社会条件について論じる。

本講では、色々な問題に対して全く異なる接近法をとったり、世間一般に信じられていることとは全く正反対の議論が行われることがある。そのため授業に出ることのできない学生諸君が単位を取ることは大変難しい。受講生には、柔軟な思考、冷静な判断力が求められる。

【講義計画】

- 第1回 導入：科学的思考とは何か
- 第2回 経済発展の意義
- 第3回 経済発展の要因その1 貨幣
- 第4回 経済発展の要因その2 物財
- 第5回 経済発展の要因その3 資本
- 第6回 経済発展の要因その4 制度
- 第7回 経済発展の要因その5 思想
- 第8回 経済発展以前の社会その1 経済発展の制約要因としてのエネルギー不足
- 第9回 経済発展以前の社会その2 労働の重要性和奴隷制
- 第10回 産業革命直前の状況
- 第11回 エネルギー革命としての産業革命
- 第12回 産業革命による人々の生活の変化と1848年革命
- 第13回 大衆消費社会への前進
- 第14回 第二次産業革命
- 第15回 大量生産体制の確立
- 第16回 第一次世界大戦
- 第17回 大衆消費社会の到来
- 第18回 大量生産社会の落とし穴
- 第19回 環境問題総論
- 第20回 地球規模の環境問題その1 オゾン層破壊
- 第21回 地球規模の環境問題その2 地球温暖化
- 第22回 地球規模の環境問題その3 種の保存その他
- 第23回 その他の環境問題
- 第24回 人口と経済発展
- 第25回 歴史的な人口動態
- 第26回 人口と経済発展
- 第27回 経済発展と社会秩序その1 破綻国家問題
- 第28回 経済発展と社会秩序その2 秩序の源泉

【成績評価の方法】

成績評価は期末試験のみで行う

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	井 田 憲 計

【講義概要・学習目標】

この講義は、経済学を主要な専攻とすることがないであろう諸君を対象とする入門的な講義である。

経済学の専門用語と基本的な考え方を概説し、新聞や雑誌の経済記事あるいは政府の『経済財政白書』などの内容を理解するための基礎学力の習得をめざす。公務員試験などの練習問題にもチャレンジしていく予定である。

受講生諸君には、経済の動きを論理的に考察することの大切さを理解していただければと思っている。「経済学的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できつと役に立つものである。

【講義計画】

- 1. ガイダンス
 - I. 経済学のもの見方考え方
 - 2. 経済学とは
 - 3. ノーベル経済学賞、エコノミカの生態
 - 4. 市場の役割
 - 5. 日本の経済力
 - 6. 日本経済と世界経済の現状
 - II. ミクロ経済学
 - 7. 需要と供給
 - 8. 需要曲線のシフト
 - 9. 供給曲線のシフト
 - 10. 消費者の行動
 - 11. 予算制約
 - 12. 効用と無差別曲線
 - 13. 所得効果
 - 14. 代替効果
 - 15. 企業の行動
 - 16. 総費用曲線
 - 17. 限界費用曲線
 - III. マクロ経済学
 - 18. GDP（国内総生産）
 - 19. 三面等価
 - 20. 実額、構成比、成長率、寄与度
 - 21. 所得・支出分析
 - 22. 45度線モデル、租税、輸入関数
 - 23. 総需要政策
 - 24. IS-LM分析
 - 25. AD-AS分析
 - 26. 貿易と為替
 - 27. 経済の成長と変動
 - 28. まとめ
- (理解度に応じて、順序を入れ替えることがある)

【成績評価の方法】

出席・講義時間中の小テスト（不定期）[約30%]、講義時間外の間接レポート（1回程度）[約30%]、期末試験[約40%]、を総合（上記%で配分）して評価を行う。

【教科書】

特に指定しない。
適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

資格試験研究会編『速攻！まるとと経済学-ミクロ・マクロ経済理論-』実務教育出版（¥1300+税）
西村和雄『入門経済学ゼミナール』実務教育出版（¥2913+税）

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	桂 昭 政

【講義概要・学習目標】

本講義では経済理論を学ぶというよりも身近な日本経済の理解を深めることを目的とする。具体的には(イ)90年代以降のグローバル市場経済の浸透とともに日本の経済社会はこれまでとは違った比較的平等な横並び社会から縦並び社会、格差社会へと移行していることの理解を深めることであり、(ロ)日本経済の諸側面、例えば産業、労働、財政、金融、国際経済等の分野における現状について理解を深めることである。その結果として受講生と日本経済の距離が縮小し、経済についての関心が高まるようになればと思っている。

【講義計画】

1. 日本経済への市場主義の浸透について
2. 日本経済への市場主義の浸透について
3. 日本経済への市場主義の浸透について
(1.から3.についてのテーマの概要:小さな政府、株値資本主義、非正規雇用の増大等)
4. マクロデータから見た日本経済
5. マクロデータから見た日本経済
6. マクロデータから見た日本経済
7. マクロデータから見た日本経済
(4.から7.についてのテーマの概要:経済循環、景気、GDP、GDE等)
8. 日本の産業構造について
9. 日本の産業構造について
10. 日本の産業構造について
11. 日本の産業構造について
(8.から11.についてのテーマの概要:産業構造の現状、グローバル化時代の産業構造等)
12. 日本の労働環境の変化について
13. 日本の労働環境の変化について
14. 日本の労働環境の変化について
15. 日本の労働環境の変化について
(12.から15.についてのテーマの概要:就業構造、雇用形態の変化、ワーキングプアー、労働分配率の低下等)
16. 日本の財政とセイフティネット
17. 日本の財政とセイフティネット
18. 日本の財政とセイフティネット
19. 日本の財政とセイフティネット
(16.から19.についてのテーマの概要:小さな政府、グローバル化時代の歳出構造、グローバル化時代の歳入構造、財政と所得再分配等)
20. 「貯蓄から投資の時代」と日本の金融
21. 「貯蓄から投資の時代」と日本の金融
22. 「貯蓄から投資の時代」と日本の金融
23. 「貯蓄から投資の時代」と日本の金融
(20.から23.についてのテーマの概要:日本の資金循環、日本の金融資産構造、直接金融、間接金融等)
24. 日本の対外経済関係
25. 日本の対外経済関係
26. 日本の対外経済関係
27. 日本の対外経済関係
(24.から27.についてのテーマの概要:日本の貿易構造、海外直接投資、国際収支等)
28. 今後の日本経済—日本経済の進むべき方向

【成績評価の方法】

期末テストをベースに課題レポートを加味して評価する。

【教科書】

開講時に指示する。

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	一ノ瀬 篤

【講義概要・学習目標】

経済学というよりは、経済現象・経済問題に関する基礎知識の説明・学習を目標とする。

【講義計画】

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 経済生活の基礎：生産・流通 | 15 金本位制度 |
| 2 経済生活の基礎：消費・投資 | 16 IMF制度 |
| 3 経済生活の基礎：貯蓄 | 17 管理通貨制度 |
| 4 経済体制：資本主義経済 | 18 銀行の役割 |
| 5 経済成長：資本の蓄積 | 19 中央銀行の役割 |
| 6 経済成長：成長の指標 | 20 株式と証券市場 |
| 7 経済成長：名目と実質 | 21 租税と国債 |
| 8 国民所得統計の見方 | 22 財政支出 |
| 9 貿易の役割 | 23 ケインズの思想 |
| 10 国際収支 | 24 マネタリズム |
| 11 日本の国際収支 | 25 まとめ①：経済基礎 |
| 12 為替相場の意味 | 26 まとめ②：貿易・為替 |
| 13 為替相場の決定要因 | 27 まとめ③：金融・財政 |
| 14 中間試験 | 28 期末試験 |

【成績評価の方法】

中間試験と期末試験を均等に評価。これに加え、折々の小テストを参考とする。

【教科書】

一ノ瀬作成の講義レジメを配布し、これに基づいて講義する。

【参考文献】

三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社（最新版が望ましい）

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4単位	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

この講義は「国際経済」「株価」「失業」「日本の景気」という4つのトピックを取り上げる中で、「教養」としての経済学の知識を身につけることにある。これらのテーマにした理由は以下の通りである。

- ①年間を通して、1度は必ず報道される経済ネタであること。
- ②家計や企業、政府の動きが具体的に現れるテーマであること。
- ③受講生が興味を引くであろうテーマであること。

なお講義進行は、極力実際のデータを用いて実態に関する直感的な解説を加えるとともに、必要に応じて「数理モデル」を利用する予定である。これらを大胆かつ平易に(!)解説していくことを通じて、データの見方や経済事象の原理(メカニズムといってもよからう)の一端を理解してもらえたら存外の喜びである。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：経済学入門
- 第3回：国際経済Ⅰ（貿易統計の観察）
- 第4回：国際経済Ⅱ（為替レートの歴史と観察）
- 第5回：国際経済Ⅲ（為替レートに関する理論①）
- 第6回：国際経済Ⅳ（為替レートに関する理論②）
- 第7回：国際経済Ⅴ（為替レートに関する理論③）
- 第8回：第1回小テスト
- 第9回：株価Ⅰ（金融市場の分類）
- 第10回：株価Ⅱ（企業の分類）
- 第11回：株価Ⅲ（株価の原理的決定）
- 第12回：株価Ⅳ（他の資産価格の原理的決定）
- 第13回：株価Ⅴ（バブルの歴史）
- 第14回：第2回小テスト
- 第15回：本講義前半のまとめ
- 第16回：中間試験
- 第17回：失業Ⅰ（労働市場の動向①）
- 第18回：失業Ⅱ（労働市場の動向②）
- 第19回：失業Ⅲ（労働市場の理論的考察①）
- 第20回：失業Ⅳ（労働市場の理論的考察②）
- 第21回：失業Ⅴ（労働市場の理論的考察③）
- 第22回：第3回小テスト
- 第23回：日本の景気Ⅰ（歴史的観察①）
- 第24回：日本の景気Ⅱ（歴史的観察②）
- 第25回：日本の景気Ⅲ（キチン循環とジューラー循環）
- 第26回：日本の景気Ⅳ（コンドラティエフ循環）
- 第27回：日本の景気Ⅴ（収束仮説）
- 第28回：第4回小テスト
- 第29回：本講義後半のまとめ
- 第30回：期末試験

【成績評価の方法】

- ①講義中に行われる「小テスト」（1回10点満点で4回程度実施。その合計を2.5倍にして100点満点に換算）
 - ②講義期間中頃に行われる「中間試験」（100点満点）
 - ③最終講義時に行われる「期末試験」（100点満点）
- ※上記①～③の獲得点数から「最高点×0.75+中位点×0.2+最低点×0.05」という算式で評点をだす。
※必要であれば、各受講生の獲得点数をもとに加点措置を行う。ただしこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【教科書】

使用しない。適宜講義資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】

適宜提示する。

【備考】

試験情報などはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/>) を参照すること。

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	麻 生 憲 一

【講義概要・学習目標】

経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。

本講義は、経済学の基礎的な考え方、専門用語、作図の書き方などを概説する。

知識の習得は重要なことではあるが、ただ単に暗記に終わることのないよう配慮して授業を進めていく。

【講義計画】

本年度は以下の内容に従って授業を進める。

- 経済学の基本概念
- 経済主体とは
- 需要と供給
- 効用
- 弾力性
- 財の特性
- 生産要素
- 費用概念
- 利潤
- 余剰概念
- 市場
- 独占
- 効率性
- 情報

【成績評価の方法】

定期試験とレポート、出席により評価する。毎回授業の終わりに行う「授業内容質問用紙」が出席カードとなる。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

授業中にその都度指示する。

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

この原稿を執筆している時点で、2002年1月の「景気の谷」以降「景気の山」を迎えたという確定情報はない。その意味で日本経済は戦後最長の好景気を経験している。こうした情報がある反面、ここ最近において経済関係で明るい話題はないように思われる。官民の癒着問題ばかり、食品偽装問題ばかり、原油高騰ばかり、我々の周囲はどれも不安材料満載のようである。

こんな時代だからこそ、冷静な分析眼で現実を直視し、迅速な行動が要求される。この講義は「基礎理論」と銘打っているが、過去数年間における日本経済で話題になった事象について、その背景と顛末、そしてここから明らかになる課題について解説していく。つまり今住んでいる日本の経済事情を材料に、冷静なる分析眼の一端を身につけてもらおうというのが眼目である。

なお必要に応じて数学を利用して行くので、この点を覚悟した上で受講に臨んで頂きたい。

【講義計画】

※以下の順序で講義をしていく。

- ①ガイダンス:学習目標と成績評価を提示 (1回)
- ②GDPとは? (3回)
- ③過去5年間の日本経済の動向 (6回)
- ④企業が直面する課題 (5回)
- ⑤消費者が直面する課題 (5回)
- ⑥トピック (6回)

【成績評価の方法】

- ①講義時間中に行われる「小テスト」(5回程度実施)
- ②講義期間中頃に行われる「中間試験」
- ③最終講義時に行われる「期末試験」

※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、必要であれば加点措置を行う。なおこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【教科書】

使用しない。適宜資料(レジュメ)を配付する。

【参考文献】

内閣府編『経済財政白書』(平成15年版～19年版)

【備考】

試験情報などはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura>) を参照すること。

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

- 1 現代経済学の中でも現実の分析に多用される基本モデルの理解にのみ重点を置き、「モデルで現実の選択を科学する」を講義テーマにします
- 2 ゆえに第1の学習目標は、指定教科書を事前に読み自分で問題練習する習慣を身につけることで、自らの選択の論理的・科学的説明力を高めることです
- 3 特に成績評価の中心となる学習目標は、現実の選択を的確に説明できるように、経済学の基本概念・モデルを理解・修得することです

【講義計画】

講義内容は以下の市場関連のAとゲーム関連のBのPartに大別されます

- 1 講義目標・学習方法・成績評価は? (講義概要)
- 2 Part A モデルで思考する? (経済学の基本モデル)
- 3 A 1 学習する「経済学」とは? (選択の科学)
- 4 A 2 科学的な寓話? (モデル学習に必要な要素)
- 5 A 3 経済学者の考え方? (インセンティブの効果)
- 6 A 4 It's a Wonderful Life! - 1 (読んでみよう)
- 7 A 5 It's a Wonderful Life! - 2 (考えてみよう)
- 8 A 6 費用と便益? (個人の選択原理)
- 9 A 7 需要と供給? (市場の作用原理)
- 10 A 8 殻付きビスタチオ仮説? (独立した主体均衡モデル)
- 11 A 9 石油枯渇否定仮説? (競争市場の部分均衡モデル)
- 12 A10 経済ウォッチング? (初めての日経新聞)
- 13 AQ 上記A期間中に出席調査を兼ね実施するQuizAQ
- 14 AE 上記A期間の最後に実施する中間試験AE
- 15 Part B 戦略的に思考する? (ゲーム理論の基本モデル)
- 16 B 1 人生はゲーム? (経済学とゲーム理論)
- 17 B 2 ゲーム理論って? (定義・対象・方法)
- 18 B 3 学習するゲーム理論は? (同時ゲームと交互ゲーム)
- 19 B 4 常に有利な手は? (支配戦略)
- 20 B 5 相手の立場になって考える? (ナッシュ均衡)
- 21 B 6 対立か協調か? (同時ゲームと戦略的思考)
- 22 B 7 結果から考える? (サブゲーム完全均衡)
- 23 B 8 戦略的に行動する? (コミットメント)
- 24 B 9 ジレンマからの脱却? (協調と繰り返しゲーム)
- 25 B10 現実をモデルで捉える? (日経新聞で考える)
- 26 BQ 上記B期間中に出席調査を兼ね実施するQuizBQ
- 27 BE 上記B期間最後か試験期間に実施する期末試験BE
- 28 成績評価の最終基準と結果は? (講義総括)

【成績評価の方法】

主に以下の3点を中心に総合的に判断する予定

- 1 授業中実施予定のExam AE (45点)
- 2 授業中または試験期間中実施予定のExam BE (45点)
- 3 授業中実施予定のQuizへの参加等 (10点)

【教科書】

Russell Roberts インビジブルハート-恋におちた経済学者 日本評論社

Part A の「経済学者の考え方」をイメージできる読み物です
渡辺隆裕 書き込み式 最強のゲーム理論ノート ナツメ社

Part B の「ゲーム理論の問題」をイメージできる問題集です

【参考文献】

クルーグマン・他 (2007) 『クルーグマン：ミクロ経済学』 東洋経済新報社

【備考】

講義計画資料や文献リストの詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい

<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/>

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4単位	吉 田 恵 子

【講義概要・学習目標】

ミクロ経済学と、マクロ経済学の概要を理解すること。
 具体的には、消費者・企業・政府といった経済主体の行動を分析するミクロ経済理論の基礎と、日本経済や世界経済の全体の動きを分析するマクロ経済理論の基礎を紹介する

【講義計画】

イントロダクション
 ミクロ経済学とは
 需要と供給
 労働市場の経済学
 マクロ経済学とは
 GDPはどのように決まるか
 まとめ

【成績評価の方法】

小テスト（4回）と期末テスト

【参考文献】

「マンキュー経済学〈1〉ミクロ編」N.グレゴリー マンキュー（著），N.Gregory Mankiw（原著），足立 英之（翻訳），小川英治（翻訳），石川 城太（翻訳），地主 敏樹（翻訳）

「マンキュー経済学〈2〉マクロ編」N.グレゴリー マンキュー（著），N.Gregory Mankiw（原著），足立 英之（翻訳），小川英治（翻訳），中馬 宏之（翻訳），石川 城太（翻訳），地主敏樹（翻訳）

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	阿 部 秀 二 郎

【講義概要・学習目標】

経済学全体は非常に幅の広い学問です。この講義では現在の経済学を幅広く眺め、それぞれの考え方の特徴や利益・不利益について歴史的な視点も踏まえて紹介します。その後経済学のイロハについて考えながら、より専門的な知識修得のための基礎を獲得することを目標にします。

【講義計画】

- I. 経済学とは・・・
科学との関連
- II. 経済学の考え方・・・
歴史との関連
- III. マクロ経済学の基礎
- IV. ミクロ経済学の基礎
- V. 社会の経済学の基礎

【成績評価の方法】

初回に詳細な考え方を提示し、皆さんと一緒に決めます。私の教育的な配慮に対して不足している部分や考慮すべき部分があればご指摘ください。ちなみに出席点20、レポート点20、試験60の配分を考えています。根拠は初回に提示します。

【教科書】

岩田喜久男 経済学を学ぶ 筑摩書房

【参考文献】

授業で適宜指示します。

【備考】

経済学を主体的に学ぶための考え方を、一緒に考えたいと考えます。

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 澤 健

【講義概要・学習目標】

私たちが暮している社会は「市場経済」あるいは「資本主義社会」と呼ばれています。しかし、「市場」とは何か、「資本」とは何かと聞かれると正確に答えることは難しいものです。

この講義では、こうした経済の基本的な用語の意味を解説しながら、私たちが暮している社会の基本的な仕組みと特徴を講義していきます。経済の基本を学びながら、この社会がどのような社会であるのか学びましょう。

【講義計画】

【春学期】「市場経済」と「貨幣」

1. 市場経済の特徴
 - ①市場とは何か?
 - ②市場経済の原則
2. 貨幣と通貨制度
 - ①貨幣とは何か?
 - ②貨幣の諸機能
 - ③信用通貨制度の仕組み

【秋学期】「資本」とその特徴

3. 「資本」
 - ①資本とは何か?
 - ②絶対的剰余価値の生産と資本主義の特徴
 - ③相対的剰余価値の生産と資本主義の特徴

【成績評価の方法】

秋学期終了後に試験を行い、その成績によって評価します。講義中にレポートを何度か提出してもらいますが、それは加点要素として考慮します。つまり、レポートを出さないと減点するということはありませんが、出しておいた方が良いでしょう。

【教科書】

柴田信也編著「政治経済学の原理と展開」創風社

【参考文献】

カール・マルクス「資本論」

【備考】

「経済学」は、われわれの社会の基本的な仕組みを知るための学問です。数学を使いませんので、「経済学」の考え方に慣れるつもりで受講してください。

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	松 尾 純

【講義概要・学習目標】

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することを目的としています。資本主義経済の基礎的な仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めて総合的に分析しなければなりません。

この目的を果たすために、この講義では、「経済学の歴史」(重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等)と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。

なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論I B」(=マルクス経済学)の基礎を解説することを目的とします。

【講義計画】

1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
2. 経済学とは何か。経済学の目的。
3. 経済の歴史の概観。原始共同体～奴隷制～封建制～資本主義～社会主義社会
4. 経済学の歴史の概観①。前期重商主義。
5. 経済学の歴史の概観②。後期重商主義。
6. 経済学の歴史の概観③。重農主義。
7. 経済学の歴史の概観④。アダム・スミスのLife and Works、彼の道徳哲学、法学講義。
8. 経済学の歴史の概観⑤。アダム・スミス『国富論』解説。分業論・価値論。分配論。
9. 経済学の歴史の概観⑥。アダム・スミス『国富論』解説(続き)。資本蓄積論。
10. 経済学の歴史の概観⑦。D. リカードの経済学。D. リカードのLife and Works。
11. 経済学の歴史の概観⑧。D. リカードの経済学。『経済学及び課税の原理』解説。
12. 経済学の歴史の概観⑨。J・S・ミルの経済学。『経済学原理』解説。
13. 経済学の歴史の概観⑩。限界革命と新古典派経済学。
14. 経済学の歴史の概観⑪。ケインズの経済学。
15. 講義の中間総括。
16. 商品論。
17. 商品論(続き)。
18. 貨幣論。
19. 貨幣論(続き)。
20. 資本とは何か。
21. 剰余価値論。
22. 剰余価値論(続き)。賃金論。
23. 資本蓄積論。
24. 資本の流通過程。
25. 利潤論。
26. 信用論。
27. 現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。
28. 講義全体の総括。

【成績評価の方法】

学期末の試験は行わない。成績評価は、授業時間内に予告なしに実施する6回の小テストによって行なう。小テスト得点合計(各回20点満点)によって成績評価を行う。小テストの得点合計が60～69点であればC評価となり、70～79点であればB評価となり、80点以上であればAとなる。出欠調査は行わない。

【教科書】

市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能なかぎり、講義要旨・参考資料等の資料を配布する。資料配付は各回の講義に必要な資料をその都度その講義時間内に限って配布する。

経済学史

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	熊 谷 次 郎

【講義概要・学習目標】

経済学の歴史を通史的に講義する。その歴史を大きく時代順に以下のように3つに分けて論じる。

- (1) 重商主義。17世紀～18世紀末。富は主として外国貿易によって増加すると論じ、国内産業も外国貿易との関連でその意義が論じられた時代の思想と政策。外国為替、経済循環における貨幣の役割、産業貿易の保護政策、重商主義帝国などがテーマ。
- (2) 古典派経済学。18世紀末～19世紀中葉。経済学の父といわれるアダム・スミスからはじまり、主に19世紀イギリスの自由主義的経済学が対象。富は国内における生産が消費を上回ることによって生まれる資本蓄積によって増加するとする産業革命期以後の学説。
- (3) 古典派批判。19世紀半ばのリストの幼稚産業保護論、マルクスによる資本主義批判、現代ミクロ理論の先駆的存在である限界（効用）分析を展開した経済学者たち、1930年代の大不況期における経済学など。

講義ではさまざまな時代の経済学者たちがその時代の経済社会を観察し、分析し、政策提言をする際の、その思想の多様性・アイディアの豊穡さ、といったようなものを多少論争史的視点をも取り入れながら話すつもりである。それによって経済学に関する知識が広がり、ものごとを相対的に見る視点が養われることを願っている。世界史や経済史・社会史・知性史とも関連をもつ講義なので、そうした分野に関心をもつ諸君は、それを一層深めるために、またそうした分野に無知あるいは苦手の諸君は、これを機会にそれを学ぶつもりで受講してほしい。

【講義計画】

- I. 経済学史とは何か
- II. 重商主義
 - (1) 重商主義とは何か
 - (2) 1620年前後の貿易差額・為替論争
 - ① マリーンズ——重金主義から重商主義へ
 - ② ミスルデンとトマス・マン——貿易差額説の出現
 - (3) 17世紀末～18世紀初頭における貿易と貨幣をめぐる論争
 - ① キャラコ論争——東インド貿易は有利か不利か
 - ② バーボンとダヴナントの「自由貿易」論
 - ③ ケアリーとポレクスフェンの「保護貿易」論
 - ④ 利子と貨幣をめぐる論争——チャイルド、ロック、ラウンズ
 - ⑤ 対仏ユトレヒト通商条約（1713）論争——対仏貿易は有利か不利か
 - ⑥ 植民地・帝国・経済学——デフォアの経済循環論
 - (4) ウィリアム・ベティ——「政治算術」の登場
- III. 重商主義解体期における経済学
 - (1) ケネー『経済表』における経済循環
 - (2) デーヴィッド・ヒューム——奢侈・インダストリー・貨幣数量説
 - (3) ジェームズ・スチュアート——有効需要創出と国家の役割
 - (4) タッカー——重商主義から自由貿易帝国主義への予兆
- IV. 古典派時代の経済学
 - (1) アダム・スミス
 - ① 「経済学の父」における文学と経済学
 - ② スミスの経済思想
 - (2) 19世紀転換期の経済論争——人口論争・通貨論争・穀物法論争
 - (3) リカードウ——古典派最高峰の理論家による資本主義分析
 - (4) マルサス——有効需要論にもとづくリカードウ批判
 - (5) 綿工業と自由貿易論——マンチェスター派の自由貿易論
 - (6) J. S. ミル——ヴィクトリア朝時代の諸問題と苦闘した知識人の思想
- V. 古典派批判者群像
 - (1) 後発国の工業化と保護主義——フリードリヒ・リスト

- (2) マルクス——ミルと同時代人による資本主義経済の批判的解剖
- (3) 限界革命の経済学者たち——メンガー、ジェヴォンズ、ワルラス
- (4) ケインズ——有効需要の理論による不況克服策
- (5) シュンペーター——「創造的破壊」と「新結合」の経済学

【成績評価の方法】

中間試験と期末試験との総合点で評価する。

【参考文献】

必要に応じてその都度提示する

【備考】

毎回資料を配付する予定。資料だけ取って出て行くというような破廉恥にして卑劣な行為はしないこと。遅刻・途中退出等の際には必ず理由を言うこと。

科 目 名			
経済学特講—英語で学ぶグローバル経済			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies and achievements in the postwar period. The purpose of this course is to familiarize economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations and to examine the course of Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. Therefore, a high level of English comprehension is required.

【講義計画】

1. The Japanese economy in the world economy today
2. Statistical overview
3. Japan's postwar development model
4. Challenges of globalization
5. Some non-economic issues: Declining Japan
6. Some non-economic issues: Resurgent Japan
7. Japan as a member of the East Asian Community
8. Japan struggles with the challenges of globalization: Cultural and human aspects
9. Japan struggles with the challenges of globalization: Political and economic aspects
10. Japan's foreign trade: policies, strategies, achievements
11. Japan's international economic negotiations: 1985-1993
12. Recent developments in Japan's balance of payments
13. Foreign investment: policies, strategies, achievements
14. Review

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, and reports submitted.

【教科書】

No text will be assigned.

【参考文献】

Handouts will accompany each lecture and will serve as a basis for instruction and discussion.

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
経済学特講—英語で学ぶ日本経済			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese economy focused on the domestic aspects of postwar development. The purpose is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and some salient domestic economic events and developments that have determined the course of the nation's postwar economic progress. Lectures will cover key issues in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan can be expected to play in the global economy of the 21st century. Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and reports will also be written in English. A high level of English comprehension is required.

【講義計画】

1. Overview of the Japanese economy today
2. Statistical overview
3. Dimensions of Japan's economic power and influence
4. The unfolding demographic crisis
5. Phoenix risen from the ashes: rejoining the community of nations
6. Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth
7. Limits to growth: environmental crisis and oil shocks
8. A season for Japan bashing and the logic of incremental adjustment
9. Plaza Accord and learning to live with the strong yen
10. Bubble economy: policy failure and irrational exuberance
11. Limits of Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis
12. Vision for Japan in 2020

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, and reports submitted.

【教科書】

No textbook will be assigned.

【参考文献】

Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

【備考】

英語による授業です。